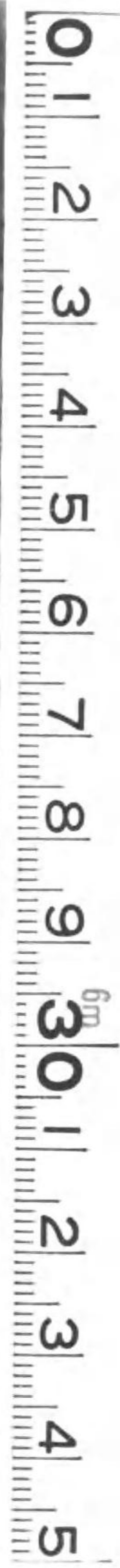
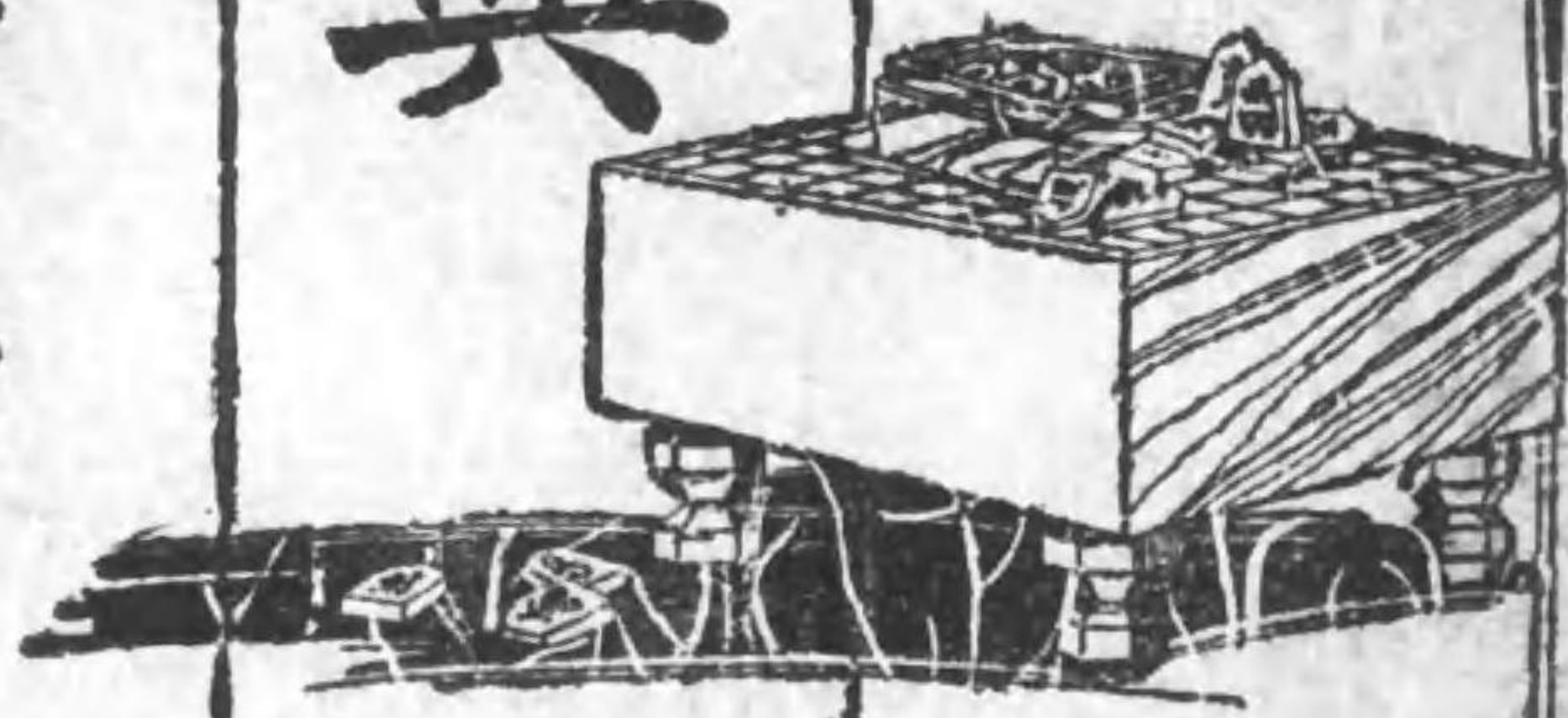


355
938

東京將棋俱樂部編

定跡將棋必勝寶典
圖解

東京 金竜堂發兌



始

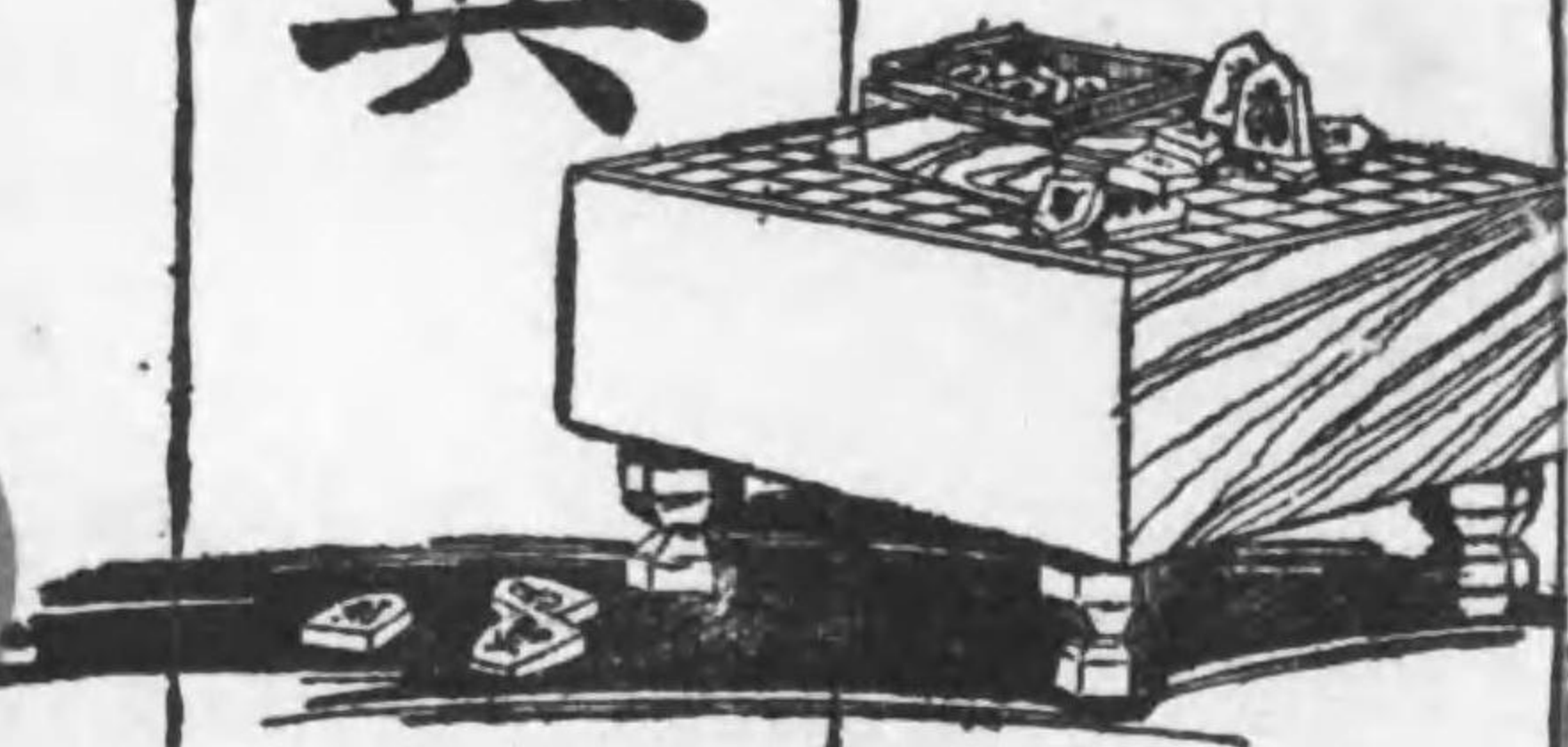


特226
164

東京將棋俱樂部編

定跡
圖解
將棋必勝寶典

東京 金竜堂發兌



目次

(一)	次	目
入門者への注意	………	一
将棋の並べ方	………	四
駒のさき道	………	五
盤面の圖	………	九
盤面上の符號圖	………	一〇
駒が「成る」と云ふこと	………	一一
駒を取ると云ふこと	………	一五
段階と碁子の格位	………	一六
定則のいろいろ	………	一七
術語に就いて	………	二〇

先手	——	互先	——	駒落	——	香落
角落	——	飛車落	——	飛香落		
二枚落	——	三枚落	——	四枚落		
五枚落	——	六枚落				
實戦上の注意	………					二七
定跡	——	詰將碁	——	指將碁	——	
力將碁(手將碁)	——	中押	——			
持將碁						
用語に就いて	………					三〇
三組の實例	………					三七
中間の實例	………					三九
詰將碁の實例(一)	………					四〇

詰將棋の實例(二)……………四二
 歩の利用法……………四三
 平手の駒組……………四七
 櫓……………五〇
 袖飛車の圖解……………五二
 石田の圖解……………五三
 美濃圍……………五四
 後手四間飛車……………五六
 中飛車……………五七
 向飛車……………五九
 雁木(引角)……………六〇
 筋……………六一

香車落(左香落)……………六六
 左香落……………六三
 角落……………六四
 角落銀象眼……………六五
 二二飛車廻り……………六七
 飛車落……………六八
 飛香落(一丁半)……………七二
 お酒徳利駒組の圖解——端飛車の駒組の圖解——引角の駒組の圖解……………七三
 六枚落……………七四
 五五歩止の駒組の圖解——他傳……………七五

の駒組の圖解——金他傳の駒組の圖解……………八一
 三步突切り……………八一
 古流中飛車……………八三
 上手端崩し……………八四
 三枚落……………八五
 四枚落……………八六
 五枚落……………八八
 六枚落……………九一
 結言……………九二
 六枚落崩し方……………一〇〇
 四枚落……………一〇七

居飛車崩し……………一一
 二枚落崩し方……………一一三

定跡將棋必勝寶典

東都將棋俱樂部編

◇入門者への注意

本邦に於て將棋の歴史は中々古いものであります。將棋の戦法はあたかも、わが武士道の氣概を思はせるものであります。將棋の妙味、妙諦は、將を守ること、兵をくり出して力戦苦闘を盡す所に存すると云へます。

よく人に云も傳へられてゐる「將棋は入り易くして學び難い。碁ははひり難く、學び易い」と、だからこの將棋の道の名人、上手となるまでには、どうしてもさう學び易いものではありません。

併し、ただ初めに一寸考へては、將碁の方が簡單の如く思はれるもので、一般に

はやはり將棋の方がよろこばれてゐるやうに思ひます。

どうしてかと云へば、將棋の方は子供の時代から駒の動かし方ぐらゐは、見たり聞いたりしてゐるので、勢ひ手が付け易いと云ふにあるらしいのです。

併し指し易いからと云つて、我流で、獨りのみこみて、いくらやつても、それは高が知れてゐるので、感心出来ないのです。決して名人、上手、上達、向上は望まれません。かへつて、下手で固まつて了つて、救はれない不具者のやうに萬年初歩になる恐れがあります。

屹度こんな人は、後進に向つて云ひます「定跡で指すと負けるよ」などと云ふのがそれです。これらの類が田舎初段と云つて、人から相當上手に思はれ、自分も得々としてゐるのだから笑はせるてはありませんか。どうして田舎初段が負けるかと云ふと、下手で固まつたからです。自己流で築き上げたからです。本筋で初めた人にはどうしても勝るものではありません。

其處で「如何すれば必ず勝てるか？」と云ふのが問題になります。

その答は明瞭です。即ち、始めから本筋で學び上げるのが最もよき方法であります。と云つても最初から必勝はいくら本筋だからと云つて確言は出来ません。二階へ人は一足飛びに鳥でないから上れない如く、一つ一つと順次段階を踏んで、この道の奥堂をきはめて行かねばなりません。そこで初めて、將棋に上達をするのだと云ふわけがあります。

かうした考へて本書は極く初歩からわかり易く本筋を解いて行きます。勿論、一寸は知つてゐる人でも始めから下手固まりを避けて、充分よき指し手になることを目的にこの本は書き表してあります。

どうか少しは知つてゐる人でも、本筋に立ちかへるやうに研究されんことをのみ、同時に素人ばなれされんことを切望します。

以上いじやうの駒こまのなかに取ることの出来ないのは王將おうしやうだけです。他の駒こまはすべて捕獲ほくわくして来て、又自分またじの方に使用しやうじやうすることが出来ます。故に先方せんぱうが駒數こまかずが少なくなり、自

◇駒の並び道

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

(西盤るせ列盤の子棋)

◇将棋の並び方

将棋しやうぎの駒こまの個數こすうは合計けいけいで四十個こじゅうあります。これを双方さうぱうに分けますから、甲かは二十個にじゅうこ、乙えいは二十個にじゅうことなるわけです。

次に駒こまの種類しゆるいを示します。

- 王おう 王將おうしやう 王おう 王おう 各一個
- 玉たま 玉將たましやう 飛車ひしや 二個
- 飛ひ 飛車ひしや 角行かくぎやう 二個
- 角かく 角行かくぎやう 金將きんしやう 四個
- 金きん 金將きんしやう 銀將ぎんしやう 四個
- 銀ぎん 銀將ぎんしやう 桂馬けいま 四個
- 桂けい 桂馬けいま 香車かうしや 四個
- 香かう 香車かうしや 歩兵ふへい 十八個
- 歩ふ 歩兵ふへい

- 龍りゆう (龍王) 飛車ひしやの成駒
- 馬ば (龍馬) 角行かくぎやうの成駒
- 金きん 銀將ぎんしやうの成駒
- 金きん 桂馬けいまの成駒
- 主しゆ 香車かうしやの成駒
- と 歩兵ふへいの成駒

以上合計四十個です。

分の方が駒が多くなつたり、増減は戦中あるのです。
 前に云つたやうに、王將は取ることが出来ない代りに、敵の王將の逃げ道が無くなつて萬事窮すれば、勝ちになるのです。とりもなほさず味方の王將のがれ場所がなくなれば負けと云ふことになります。
 以上の如く九種類の駒四十個を、前圖に示したやうに(碁子の整列せる盤面)駒を並べて愈々對向試合が開始されるのであります。
 以上に「王」又は「金」「香」とあるは、皆それぞれ「王將」「金將」「銀將」……と略記したのにすぎません。
 これから次に各々の駒のさき道に附いて一々圖示することにしよす。
 ○印は駒のさき道を示します。

○	○	○
○	王	○
○	○	○

王は圖示の如く八方へ一間づつさきくのであります。

○	○	○
○	金	○
×	○	×

「金」は前方三方へ利くと同時に再横二方と、なほ真下へすべて一間づつ利きますが、下へは左右斜とも利きません。
 ×印は駒の利かぬ印です。

○	○	○
×	銀	×
○	×	○

「銀」は前三方と、斜下の左右には一間づつ利きますが、左右兩横とま下へとは利きません。

×	×	×
○	×	○
×	×	×
×	桂	×
×	×	×

「桂」は左右兩方ともに一間斜め上の方へ飛ぶことはできませんがその他は、全對に駄目です。よく「桂馬の高あがり歩の餌食」と云ふ言葉がある程で桂馬の頭へ歩を打たれると死んで

了ひます。

×	○	×
×	○	×
×	○	×
×	○	×
×	○	×
×	○	×
×	○	×
×	香	×

横、斜の何れへも利きません「香車」は前方へなら一間でも二間でも、五間、八間と自分の思ふやうに進めることが出来ます。俗に前方へ指すので「鎗」と云つてゐます。

×	○	×
×	歩	×
×	×	×



「歩」とは「歩兵」の略記であります。この駒は單に前方へ一間だけ進むことが出来るのみで他はいづれへも利きません。勿論、左右、兩横、斜上下とも駄目なのであります。

「飛車」は圖示せる如く左、右の兩横、上下の四方へは盤上自由であります。



「角行」は「角」と略して呼びます。前後の左右兩斜にはどこまでも利くのです。その他へは一間たりとも利きません。

◇盤面の圖

將棊の盤は、横堅ともに九間づつあります。故に全部で八十一間あることはおわかりでせう。盤の全寸は、堅が一尺二寸、横が一尺一寸ですから、少々堅長であります。今圖で甲乙の兩陣地を示します。中央は戰場であつて、陣地ではありません。

(2)

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩

(甲)

駒の配置

甲の陣地

◆盤面上の符號圖

盤の上には文字は書いてありません。ただ指手を數へる爲めの符號を定めたのにすぎないのです。この符號によつて今昔をとはず人の指したのをこの文字によつて示し乍ら、練習と研究との用に立てゝゐるのですから、そのおつもりでて下さる。

九ノ一	八ノ一	七ノ一	六ノ一	五ノ一	四ノ一	三ノ一	二ノ一	一ノ一
九ノ二	八ノ二	七ノ二	六ノ二	五ノ二	四ノ二	三ノ二	二ノ二	一ノ二
九ノ三	八ノ三	七ノ三	六ノ三	五ノ三	四ノ三	三ノ三	二ノ三	一ノ三
九ノ四	八ノ四	七ノ四	六ノ四	五ノ四	四ノ四	三ノ四	二ノ四	一ノ四
九ノ五	八ノ五	七ノ五	六ノ五	五ノ五	四ノ五	三ノ五	二ノ五	一ノ五
九ノ六	八ノ六	七ノ六	六ノ六	五ノ六	四ノ六	三ノ六	二ノ六	一ノ六
九ノ七	八ノ七	七ノ七	六ノ七	五ノ七	四ノ七	三ノ七	二ノ七	一ノ七
九ノ八	八ノ八	七ノ八	六ノ八	五ノ八	四ノ八	三ノ八	二ノ八	一ノ八
九ノ九	八ノ九	七ノ九	六ノ九	五ノ九	四ノ九	三ノ九	二ノ九	一ノ九

(圖の號符の面盤)

勿論、實戰に於ては、かくの如く盤上に符號などのないことをよく了解して下下さい、單に練習研究の用に供したのですから。圖に示した符號は甲が先手でかぞへた時の符號です。乙が先手の場合はこの逆に用ひればよいのです。

どうしても將棋を習ふのには、第一番にこの盤上の符號を知らねばなりません。決して面倒ではありません。これが土臺となるのですから、よく暗記しておいて下さい。此の符を知らないと、駒の進退、かけ引を習得することが出来ませんからよく盤上の符號面の勘定を忘れぬやうに深く御記憶下さい。

◆駒が「成る」と云ふこと

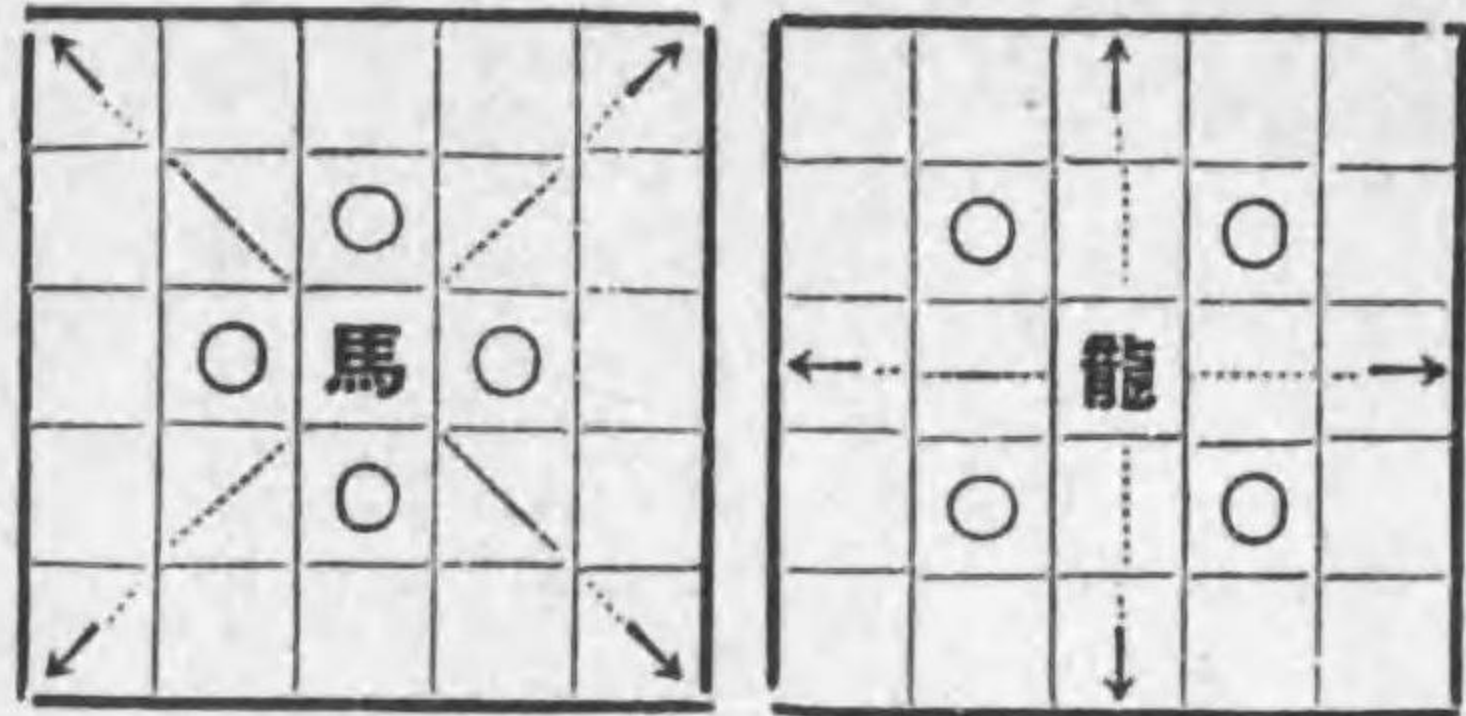
開戦中に、成駒であるかどうかと云ふ事は、詰る段取りになつてから、非常にも有る時と不利益であることがあります。併しこの「成る」と云ふのは、飛車、

角、銀、桂、香、歩の六つの種類の駒が一度敵陣中へ進み入れば、位が一段利いて道が廣くなるのを云ふのですけれど、その時によつて「成る」成らぬは自分の勝手てよろしいのです。

成駒にしては都合のよくない時には、成らなくても一向に差向へはありませんが一たび成つた駒は裏がへして、その駒が「成つた」ことを示さなければなりません成駒に成ると駒の名稱も各々變つて來ます。それを次に解説することにしませう。

「王」は幾ら敵陣へ入つたからと云つて成ることは出來ませぬ。
「金」は王と同じく敵陣深くのり込んだとてやはり金は金です。その他の駒はすべて成ることが出來ます。

「飛車」が成ると「龍王」と呼ばれますが、只略して「龍」と呼びます。この駒は以前は「王」と呼びましたが、それでは玉將と間違ひ易いために近ごろは「龍」と呼ぶやうになりましたから注意して下さい。



次に圖で示してあります點線は、成らぬ前の飛車の道ですが、成ると○印の如く一間づつ前後左右の斜に利くやうになりますからその利き目も成ると成らぬでは大變な力強になるのです。

これは勿論、成る前の飛車の利き道には何らのかはりも生じません。すべて成れば前より、より以上に道がひらけるのです。

「角行」が成ると「龍馬」となることは最初申しましたが、これは略してただ「馬」と呼びます。駒が成ると「角」は以前よりも、さらに左右、兩横、上下へ各一間づつ利くやうになります。點線は成る前に利いた道であることはあわかりてせう。成ると以前よりも、左右前後へ一間づつよけ

いに利くのですから、策戦上に如何に有利であるかは申すまでもありません。將棋の勝負は大概この「飛車」と「角行」「兩馬」と云ひます。これの使行、使ひこなし如何にあるとさへ云はれるのですからその應用、利用の熟達に到らんことを心がけねばなりません。

「銀」が成ると「金」と同格に進級します。併しもはや成る前の銀の道は利かなくなりすから、王女等の際特に、成らずにゐるべきか成るべきかを熟慮して有利に使はなくては損をします。

「桂」が成ると「金」と同格になります。勿論桂本來の利き道は不効です。

「香」も成ると「金」になります。勢ひ金になつた以上は「香」本來の利き道を捨てねばなりません。

「歩」も又これ「金」に成ります。各その道を活用すべきです。

◇駒を取ると云ふこと

駒を取ると云ふことは、敵の駒が、今自分が進めようとする所にある時に取るのであつて、策戦上取らなくてもよいのです。取れば自分の方でどこへ使行してもいゝわけです。この時「成る」と同じやうに取つて不利と見たらそのまゝにして敵に與へることもありますし、やむを得ず與へねばならぬ時も生じるわけです。すべてわが利に心をよせて捨捨臨機すべきです。

駒が「成る」と駒を「取る」と、ならぬと取らぬは、對戦に際して自分の都合のよいやうにすべきで、この解説はいくら紙数を費やしても際限がない上に、一つの駒で話してゐてはなんの足しにもあまりなりませんから此處では省略しておきます。

将棋を指すには種々の定則があります。その色々を一通りのみ込んでゐなくては、出来ないのです。次に示す四條をのみ込んでゐていただきたいのです。一、敵の「王」を歩詰にはしないものです。敵の「王將」を追ひ詰めて終つて、王の頭へ何か一駒打ちさへすれば、敵の「王」が萬事行き詰つて敗れるときに及んで、一手打てばよいこの時に「歩」であつてはいけなるとされてゐます。思へば「歩」は一兵卒に過ぎません。それが尊い「王」を取ることはいかにも道徳上、趣味上、遊びごととは云ひ乍ら人間としてかりそめにもしたくはありませぬ。併しこの時、すてに敵地に於て歩が成金である際と

◆定則のいろいろ

は三段となつてゐます。桂馬には位づけがありません。普通には五枚落ちの時は四修六枚落ちは六段と云ふやうになつてゐます。

◆段階と棋子の格位

碁家の階級は、その昔大橋宗桂の時に定められたものであります。その最高を九段として、初段を最下としてあります。

今こゝに圖示するが如く、九段の人を名人と云ひ、八段を半名人、七段を上手と呼稱してゐます。各段に就てそれの別稱を書き示しませう。碁子の位をつけるのは、飛車は六段、角は四段、香車

名九	人段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段
平手	名人	上手	上手	上手	上手	上手	上手	上手	上手
香車	交同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
定香車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
角行	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
定角行	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
飛車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
定飛車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
飛車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
定飛車	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

一段の差は九段、八段に示すが如くであります。以上参考して下さい。

か、又は初めから盤面に並べられてゐた歩ならば、一つさして王を詰めても、これはゆるされてゐます。

二、二歩を禁じます。

盤面上で同じ豎の筋へ「歩」二つ以上打つことは出来ない規定になつてゐます。併し一の歩が金になつてゐる場合は一向さしつかへがありません。どうして禁じられてゐるかと言へば、兩方で九つもの數をもつて歩てすから、その駒を同じ筋へ二つも三つも打つては、あまり勝手なことが出来て、興味がなくなるからです。これは勿論打ち手の方ではなく打たれる側から見てもたまりません。どつちにしても双方で十八駒もある歩を亂打されたのでは面白くもなくなるので禁止したので「歩詰」もその理由から嚴禁されたのかも知れません。

三、行く道のない所へ「桂」「香」「歩」を打つことを禁じます。

此の三つの駒は、敵の陣中へ打ち込む際にのぞんで、もはやその先へ行けない場合合はけつして打てない定則になつてゐます。

此の三種の駒を打つ時に於て、桂は敵陣の一段及二段へ打つ事は出来ません。又「香」は一段へは打つてはならないのです。

これは自分の王が敵の陣地へ入り込んだ時は、遠くから「飛車」「角」で(王手)をされたさいに間駒に禁じてあるのです。もしも(入王)となつて(王手)されて合ひ駒が以上の三種の外ない場合にどうしても王の行く道の無い時は負となつて了ふのです。よく注意しておくべきです。

四、千遍手を禁じます。

これは敵の「王」を詰める時とか、又は最上の利益がある手を見出した時に、敵が之れを防いで同じ處で、同じ手で駒を取つたり取られたりすることが、間々あります。これを(千日手)と呼んでゐます。これは何回くりかへしても際限のないのでありますから、此うした場合は攻め手の方で三回以上はやらすと他の手

を考へるものであります。防ぐ方では何回やつてもかまいません。併し攻め手の方ではどうしても他の手段を講じなければ卑怯とされてゐますから、決して三度以上同じ攻め手を行つてはならないと云ふ定法になつてゐます。此の外に「待手」とか色々と卑怯な方法が澤山ありますが、これらは嚴禁とか則定とかにはなつてゐませんが、見るに似るしいのといかにも人格的でない點や、伎倆の上達上の邪道であつて、かゝる習癖を忌みますから、よく注意してかゝる卑怯をしてかさぬやう、正々堂々と向ふべきであります。

◇術語に就いて

榮葉上に關して、肝要な術語が名くあります。初心の者が、之等を皆記憶することは大變だし、不可能に近いから次にざつと榮葉を指す上にどうしても必要でもないものだけを記して見ませう。

- △先手。盤上に駒を整列して先きに指し出す方を先手と云ひます。
- △後手。駒を盤上に並べてから敵が指した次に指すから「後手」と呼びます。
- △互先。指す人同志の力が互格の場合は一勝負先がやつたら、次には自分の方がと云ふ場合を云ひます。勿論、實力のある人が後手になるのは定法であります。
- △平手。同じ力量の者が互ひに同じ駒數で戦ひますから平手と云ふのです。
- △駒落。強い者は弱い者と同じ位の力になつて指す爲めに一つか二つの駒を取つておいて指しますから「駒落」と云ひます。これには萬人皆それ／＼違ひますから、それに應じて駒を順次落とすのはいろ／＼多くあるのは勿論です。
- △香落。香落とは、強い方の者が、弱い者の爲めに香車を一駒抜いて指すのを云ひます。もとは左右、どちらかの香を落したものです。現在では大抵左側の香を抜いて指すやうになりました。これには理由として右側には飛車が控へてゐるから、落したぬうちが少ないのと、もう一つは右香落よりも、左香落ちの方が

對戦上盤面の展開が面白くきくからであります。昔は左香落ちと平手との中間位るの力の違がつた者が指すときには右香落ちで指したのです。
△角落。今次に圖示したやうであります。この大切な角を落すのですからこれを大駒落しとも云つてゐます。勿論弱い者のために強い者が駒と落して指すのは申

す。りまてことないまですま

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

(圖の落行角)

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

(圖のし落車飛)

△飛車落。これも大駒落してあります。今圖て示した如くてあつて、飛車一枚抜いたものです。

(圖のし落香飛)

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

△飛香落。別名では「一挺半落」とも云ひます。飛車と左香車とを落して指すので「一挺」とは飛車のこと「半」とは香のこと。

(圖の落枚二)

皇	科	爵	零	王	零	爵	科	皇
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

△二枚落。二枚落とは飛車と角行の二枚を落すこととあります。それを略して二枚落ちと云つてゐます。

(圖の落枚三)

皇	科	爵	零	王	零	爵	科	皇
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

△三枚落。これも飛車と角行と香車との三枚を落して指す所から出たのであります。圖に示した如くです。

(圖の落枚四)

科	爵	零	王	零	爵	科		
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

△四枚落。飛車、角行、兩側の香車、都合四枚です。これ位落すやうになれば相當の力を示す事になります。

一其 (圖の落枚五)

		爵	零	王	零	爵	科	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛	
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

△五枚落。五枚落しには圖に示した如く右桂を落すものと左桂を落すものとあります。その左右の落駒によつて等

△定跡○

定跡と云ふのは、昔から多くの名人、大家によつて色々工夫案配された、實戦し

◇實戦上の注意

(圖の落枚六)

		香	王	香					
香	香	香	香	香	香	香	香	香	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角						飛		
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

二共 (圖の落枚五)

	香	王	香						
香	香	香	香	香	香	香	香	香	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
	角								
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

級には大差ないものです。飛車、角、
兩香に左か右の桂の五枚を落すもの
をいふのです。

△六枚落。六枚落ちのことを俗に「金銀指」と呼びます。次の圖に示しましたから御らん下さい。飛車、角行、兩桂、兩香の六枚を落して指すのです。これ以上駒を落して指すこともありませんが、もはや問題外で、これ以上落しては將棋を指すとは人の前で云はれません。又興味もなくてつまらぬものとなります。次に駒を落したら、いくら落した方が強いからと云つても駒落しの人から指し初めるのが定法です。

の體驗であつて、これで間違ひの無いと思はれた點を、駒組として、分れの邊までを、丁寧ていねいに教へたものを定跡ぢやうせきと云はれます。いくら構かままはないと我武者がせしやらに勝てばよいと云たからとて上手じやうずに指して行けるものではありませぬ。いかにしても將基しやうきを指したい人は、此の定跡ぢやうせきに順じてよく研究けんきゆう、練習れんしゆを重ねて、實戦じつせん上に臨んで自分の考かんがへを案出あんしゆつすること最も利考りかうであり、必勝ひつしやう、上手じやうずのはや道みちであります。定跡ぢやうせきには以上いじやうに示した通りに平手ひらてから六枚落ちまで種々いろいろとあつてこれを順々じゆんじゆんにのみ込んで行けば大した苦勞くろうもなくうまく指せるやうになります。

△詰將基。

此の手は將基しやうきの初めに勝負しやうぶの決定けつていするとき用ひられるものであります。言ひかへれば「王わう」を詰める時に、敵てきに一手ひとても隙すきを與へずに一舉きよにして勝かちをあげる點てんを示したものであります。その順序じゆんじよは圖ずに書いて示す所から一名めいに「圖式」と云はれます。昔むかしの名人めいじん大家たいかが心血しんけつを注そいで研鑽けんざんしたもので、後進こうしんに示したのであるか

△指將基。

指將棋さししやうぎは、古來こらいからの名人めいじん大家たいかと云はれる人々が、實際じつさいに指した實戦じつせんの狀じやうを書き示して、後輩こうはいのものに示したのであるから、初心者しよしんしやは大いにこの點てんに留意りゆいして、盤面ばんめんの符號ふがうをよく見、この非凡ひはんな處ところにうたれた駒こまの跡あとを検し、よく味得みとくして考慮かうりゆすべきであります。

△力將基。(手將基)

力將基ちからしやうきとは、初めから互たがひに定跡ぢやうせきで指してゐたのであるが、敵てきがどうもこの定跡ぢやうせきに秀でてゐるために、自分じぶんが定跡ぢやうせきに向つてゐては勝目かちめのないときにやる手段しゆだんで、又上手またじやうずな者が下手へたな者をごまかす場合ばあひに定跡ぢやうせきをはづれて各自かくじの持ち前もちまへの力で

考へ乍ら指すのを云ふのであります。よつて別名に「手將基」とも云はれてゐます。

△中押。

これは戦闘しても、どうにもならず敗北に落ちた時を云ふのであつて、中押の負けは將基上大きな恥とされてゐますから、よく注意してゐなければなりません。

△持將基。

持將基と云ふのは、双方の「王」駒が敵の陣地に入つてゐて、その周圍に金、銀などの成金が防備をさく／＼怠りなく、どうしても勝敗のめどがつかないときとか、又は幾らやつたからとて興味もなくなつて了ひ、將基としての本意の道を外れて了つたものを無勝負と云つて、別れて了ふ時の對局を指して云ふのであります。

◇用語に就いて

△筋。

筋と云ふのは、手筋の略言であります。本筋とは立派に指す人をほめた言葉です。その反對に無茶な出鱈目に指す人を、無筋と云つてけなしたことであります。

△落手。

いゝ隙があつたのを見落して了つて、悪い手をやつた際に言ふことであります。

△頓死。

頓死とは字義通りのこととて、自分でも思はなかつた、即ち考へ至らぬことと詰められた時に頓死と云ひます。

△傷み。

駒を落して指したのはいゝが、その爲めに弱い人の方からうんとやりこめられて惨々の時に苦しむのを傷みと云ひます。

△質駒。

甲の駒なんによらず、すぐ取れるのではあるが、今さして慾しくもないときに、その用が出るまでそのまゝにしておく駒のことを質駒と云つてゐます。

△逃げ腰。

「王」を今のまゝではあぶないと見たときに適當な安全地帯へ逃げておくことを云ひます。これは時々つきあたることで、うまく逃げておけば、大變いゝ時があり先見の明があつたわけて大いに有利であります。

△繋ぎ。

繋ぎは將基を指す上に於て重要である。この繋ぎの上手下手で大した差を生じるものである程です。さして繋ぎとは駒と駒との聯絡をよくつけておいて、順々に駒の配置を手ぎはよく指してゆくことを云ふのであります。

△素抜。

素とは、駒と駒とのつらなりがなくて、只取られることを云ふのであります。故に素抜にかゝると馬鹿らしくて堪りませんから御注意が第一。

△間駒。

これは飛車だとか、角、又は香などで遠方から「王手」をやられた時に、それを防ぎ、遮る爲に打つ駒を云ひます。此の間駒の打ち方の如何で勝敗の危地に立つ場合が非常に多いので大いに研究を要します。これについては後述しますからその時によく見て下さい。

△遊び駒。

遊び駒とは無駄駒のことです。あつてもなんの役にも立たず邪魔になるときさへある位です。この遊び駒が多ければ多い程いけないので負けとなることがあります。注意が必要です。

△よる。

駒の横に動く時に云ふのです。

△すぐ。

まづすぐに駒の進んだ時に云ふのです。

△飛ぶ。

之れは桂馬の飛ぶのを云ふのであります。他の駒には飛ぶと云ふことは云はないやうであります。

△走る。

香車の進むのに云ひます。他の駒には用ひません。

△突く。

歩兵に限つて突くと云ひます。

△引く。

飛車でも角でもすべて駒が後へさがる時に云ふのです。

△打つ。

王の外、手に持つてゐる駒を打つ時に用ひます。

△取る。

自分の駒で敵の駒を取るときに用ひる言葉です。

△出る。

前に駒を進める事ですが、おもに飛車や、角が動くときに用ひます。

△成る又は化する。

敵の陣中へ自分の駒が入り込んで裏がへすとき格の上がるのを云ひます。又は敵陣中より外へ引くときにも云ひます。

△兩王手。

一時に二つの駒で王手をやらかすことを兩王手と云ひます。

△明王手。

遠方にある飛車、角、又は香などの中間にある駒が動いて、自づと王手になるのを明王手と云つてゐます。

△「けれん」又は「はめ」

これは敵をあざむく手段を云ひます。一つの計略でもあります。このことを「はめ」手又は「けれん」と云ふのであります。

△必死、又は縛り。

「必死」は一名「縛り」とも云はれてゐます。直接に王手、又王手とつづけて攻めずに、一手すきに攻め立てられて、どうしても防げずに結局詰められて了ふことを云ふのであつて、待駒のごときのものであります。本ものゝ指し手でない連中がよく待駒は卑怯と云ふけれども、待駒される隙のある方がやはりいけないのであります。

△持駒。

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
					角	金			一
								王	二
							香		三
							銀		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒先手方一步つ

◆駒組の实例

敵から取つて自分の手に持つてゐる駒のことです。

成らない時の实例として圖示しました。

自分の駒が敵陣中へはいつても其の時の形勢で化らなくともよいのです。この事は前にも一寸述べておきました併し实例としてそれをはつきり、實戦に應用出来るやうに此に示しました此の圖の如き場合に際しては、先づ最初に角で二ノ三の歩を取つて、角が成れ

ばいゝので、さうすると敵の王は一ノ一へ逃げるより外に道がありません。故に一ノ二へ持駒の歩を打てば詰むのでありますが、歩詰めは禁じてあると前に書いたとほりですから、打つことが出来ません。他に持ち駒が無い場合には詰方があります。こゝに於て「化らず」の應用をやるのであります。それには二ノ三の歩を取つた時角を化らずにあげばよいのです。すると王はどうしても一ノ一か二ノ二へ逃げるにきまつてゐます。一ノ一へ逃げた時には一ノ二へ歩を打ち、王を二ノ二へ逃がして三ノ二へ角を化らすと、王は一ノ二にある歩を取つて逃げるのですから、二ノ三へ銀が成れば詰みます。他に又王が二ノ二へ逃げれば三ノ二に角が化り、王は一ノ二へ逃げる、そこで二ノ三へ化銀がよればよい。王は一ノ一へ逃げ、二ノ二龍(化角)より詰むのです。

これはすこぶる簡單明瞭な實例のほんの一つに過ぎませんが、まづかゝる理由であることをのみこんで複雑な時に十分に應用することを筆者は希望する次第であります。

◇中間の實例

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
皇	科	王	い	お	飛				一
		王		ろ					二
		歩	歩						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

ます。どうかこの點をよく理解してやつていただきたいのです。

茲に示した圖の如く、飛車で王をか
けられた時、王のそばの「い」の
ろへ「金」を打つて間駒をしたのでは
「ろ」の處へ銀を打たれて「い」の
ころへ打つた間駒を取らうとする先手
を指されて了うことになりませう。此の
いた手をのがれるには又先手に自分か
取るには「は」の處へ歩で間駒をやる
と、敵は間駒の歩を飛車で取つて成り

まず即ち龍王となつて王手をするのにきまつてゐますから、その時「い」の處へ金でも打つて間駒をやれば、飛車はどうしてもとられるから逃げることになるでせう。そこで又「ろ」へ金を打つて來ても飛車を取つてしまひますから少しも苦しくありません。すると飛車はどうしても逃げるでせう。そうすればしめたもので自分が先手となることは、あわかりになつたでせう。

◆詰將棋の實例 (一)

將碁は一手でも勝つのが目的でありますから、詰手になつたらどしどし間駒なくやり込めて了ふのがよいのであります。その時一寸でも隙を見せたが最後で、敵はすばらしい勢で詰手をはじめますから、一息の休みは陣を亂し敵に油断を與へるこゝとなるからです。そうなると中々防ぎにばかり氣を取られて、攻め立てるのに非常な苦心をしなければならなくなります。いざ詰手にかゝるには相當の配備が整つ

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
					銀		科	皇	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

銀銀角角飛駒持

てからやるべきであります。又持駒と云へば場所ある他はすべて敵の掌中に握られてゐるのですから大いに意を用ひて、油断なく周到に立働らかねば負けを取つて了ひます。次の圖に於ける詰將碁を解説することにしませう。

△二四角打ッ ▲同歩△三三銀打ッ ▲同王△五五角打ッ ▲同銀△三一飛打ッ ▲四四王△四五銀打ッ ▲同王△六三香化

ル▲同王△六一飛化ル▲五三王△五二金打ッ
で、詰むのでありますが、これを變化してやれば色々澤山ありますが、次の二三の最も變化のあるものを御參考に供しませう。

(其一) △二四角打ッ▲五三王△五一飛打ッ▲四四王△六六角打ッ▲五五間△四五銀打ッ▲同銀△五五飛車化ル (其二) △二四角打ッ▲同歩△三三銀打ッ▲同桂△三一角打ッ▲四一王△四二銀打ッ▲五二王△八二飛車打ッ▲六一間△六三香化ラズ▲同銀△六二金打ッ

以上の説明であわかりの事と思ひます。かく圖解してあれば面白く意の如く行きますが實戦ではさう仲々うまくゆかず、又かう記憶して應用するのに困難ですからよく二三度研究して應用に意を留めて下さい。

◆詰將棋の實例 (二)

△八二銀打ッ▲同銀トル△五一角打ッ▲同金トル (六二へ間駒を打つても飛角どちらで取つても詰みとなります) △八五桂ト飛ぶ▲同銀トル△七二飛化ル▲同王△六四桂トブ (これは歩で取りたくても、香車の明王手とならうから取れない) ▲六二

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
皇	科	壽			王				一
						飛			二
	歩	歩	王	歩	歩				三
			壽						四
									五
			桂						六
			桂						七
			香						八
									九

銀角 駒持

王逃△七二香化ルで詰まるのであります。此の詰將棋をよく理解してゐると兩王手と明王手との實例を含んでゐるから、大いに研究、案配して會得しなければなりません。

◆歩の利用法

たゞ一步の活用によつて名人は策略の上手下手を明らかに物語つてゐる。と云は

れてゐる程であるから一步の利用如何で極言すれば勝敗に關するとまで云ふことが出來ます、ですから歩の利用の如何に指し手の頭のよさが實地に立證されるわけがあります。故にどうしても勝つと云ふのは歩の利用にあることが明かです。將棋に手を染めるならまづ歩の運用に一大腦力を用ふべきであります。實に歩の應力は偉大な効顯があることをのみこんで大いに研究されんことをのぞみます。

名人大家が如何に歩を重大視してゐるかを諸君が見ても明さらかてせう。

さて歩の活用の方法としてはまづ

- 一つには 歩を突き出す時。
- 二つには 歩を打つとき。
- 三つには 歩を化る、金にして利用する事。

大體以上の如きことをもつて歩の生命と使命がつくされます。

歩は又碁子全體の約半數を占めてゐて、進むことは出來てもその利用の途は頗る

少いのである故に、人はどうも、特に一步指す位のもの者は等閑にしてゐていけないものです。故に定跡で愈々戦火を交へる段になつてから、よほどの注意を以て、一步の進退を考へてからやらねばもうすぐ退く力のない哀れさにすぐ死んで了ひます。無雑作に下手はすぐ歩を突きますがあれなどはもはやその下手をむき出しにしてゐる證據なのです。とそれが原因で始終苦しい戦ひをつづけなければならなくなります。ですから歩を一つ取られたら、そこから突進して敵陣目がけてぶち破りにかゝらねばいけません。併しその歩を取られる時にはやはり取られてもいゝ戦術がそのかけになくては何のたしにもならないと云ふことをよくのみこんでかゝらねばいけません。

又下手に歩を突き出してあとで飛車とか角とかの途を遮つたりして、自ら活動を鈍ぶらすが如き醜體をよく初心のうちはやらかすものですから大いに歩一つ突くときには深甚の熟慮と時機とを確乎とつかまなければいけません。くどいやうです

が、くれぐれも歩の一進については大注意を要すと云ふことを記憶しなくてはなりません。

二歩は前に禁じたと云つてありますから、無やみと歩を易つぽく亂用すべきではありません。一步のために王の危地に立つ時は大いに實戦中あることを考へて、その盤上の大勢をよく見、深長にも深長を重ねて歩を打ち、又は進めなければ、歩は大なる力をあらはします。蟻穴より大堤を崩すが如き諺は尤なこと、思はなければなりません。

歩を成らすことが又要諦です。機會ある毎に歩を金に化らして「王」の近くへ近くへと侍らしておくことは味方のこの上ない力です。歩は味方には金であるが、敵は他の駒で取るもたゞの歩である所から、味方に非常な力となることが分明させらう。

◇平手の駒組

この平手の駒組には種々ありますが、次に書いたものが最も多く行はれてゐるやうであります。

相懸り	二十八手組	石田
櫓圍み	美濃圍み	四間飛車
向飛車	袖飛車	中飛車
雁木	居飛車	三筋

以上のやうであります。此の外にもこれを土臺として色々流技が出てゐます。例へば相懸りの中から「横歩取り」又は櫓圍の中に「相櫓」「櫓崩」など、云ふ名稱の變つたものがありますけれども、その原はと云へば前記の中から別れて出たものでありますからこの本筋を理解すれば自づとそれらも覺えると云ふものであります。

す。

相懸り二十八手組の圖解。

(△は先手) (▲は後手)

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
皇	将			王	将	将	将	皇	一
			将						二
将			将	将		将	将	将	三
	将								四
		步		步		步	飛		五
			步		步			步	六
步	步		步		步	銀			七
	角	金							八
香	桂	銀	王	金			桂	香	九

つ一步に共方双 駒持

- △七六歩▲三四歩△二六歩▲八四歩△
- 二五歩▲八五歩△七八金▲三二金△二
- 四歩▲同歩△同飛▲八六歩△同歩▲同
- 飛△二六飛▲二三歩△八七歩▲八四飛
- △四八銀▲六二銀△五六歩▲五四歩△
- 六九王▲四一王△五九金△五一金△三
- 六歩▲七四歩
- 双方二十八手で陣營が出来るので二
- 十八手組みと云ふのがあります。がこ

の他に十八手組みと云ふのがありますが、これは略してたゞ相懸りと云つてあきませう。

又この駒組みでは先手も後手も共に「金」横によつてゐるがこれを「王一金」と云つてゐます。

後手の方がこの金を横によせず、左斜「五二金」と上がるのがあります。これを「五二金」と云つてゐます。

先手が「五一金」であつて、後手が「五二金」と上つたのは、先手の方には後ろに飛車を捨てた時に二九飛車と打たれても、すぐ王手とならぬために王のそばに寄つておくのでありますが、後手が飛車を切り捨てるのではないから「五二金」に上るのであります。この圖に示したのは「五一金」の型であつて、後手が飛車を切り捨てる備へであるからであります。

かくの如く駒組みが出来上れば、お互ひに桂馬を上げて、先手よりしかけの「二

「三步」を打ちこんで戦を始めるのが普通のやり方でありませぬ。

◇ 櫓 圍 (相櫓とも云ふのです)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
	飛				皇	皇	王	
		皇	皇		皇	皇	皇	
	皇						皇	
		皇	皇	皇				皇
	皇	皇	皇	皇	皇			
	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	
	皇	皇	皇	皇	皇	皇	皇	
香	桂						飛	香
							桂	

つ一步に共方双 駒持

櫓圍ひと云ふのは「王」を金や銀で圍んで、その形が櫓の中に立て籠つてゐるやうになるから云つたものです。必ずしも双方が櫓がこみて攻め合ふと云ふことはありませんが、こゝに於ては櫓圍の説明ですからわかりよく櫓圍の圖解をしをくしだいであります。

△七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩
 △四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩

△三六歩▲八四歩△七八銀▲六二銀△二五歩▲三三銀△五八金右▲八五歩△七七銀▲五二金右△六六歩▲四三金△六八王▲四二王△七八王▲三二王△六七金▲七四歩△七九角▲三一角△八八王▲二二王△七八金▲三二金△三七銀▲七三銀△一六歩▲九四歩△九六歩▲一四歩△三五歩▲同歩△同歩▲同歩△七六歩▲四二角

これで双方が同じやうに組み上つてゐます。即ち双方相櫓となつたわけですが、これが土臺となつて先手から化かけが始まり、種々變化してゆくのですが、一々こまかくやつてゐる日たは何百枚書いても限りがありませんから、この構への基本的の圖示をしたのみに止めておきますから、諸君は心のまゝに應用して下さい。併しして下さいと云つても一寸初心者には六かしいのですが、よく最初からこの本をよんで下されば、わかることを私は明言しておきます。

◇袖飛車の圖解

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科		王	王	王	科	皇	
		遊						
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
				歩		歩		
歩	歩	銀	歩		歩		飛	歩
		角	王	金	銀		桂	
香	桂		金					香

駒持 先後手方 一方歩

- △六八銀 ▲七四歩 △五八金右 ▲七五歩 △同步 ▲六四銀 △七七銀 ▲七二飛車この

此の駒組は、主に後手方が指すものであります。かゝるときに先手は居飛車がもつともよい方法であるとされてゐます。その駒組を次に紹介いたしませう。

- △七六歩 ▲三四歩 △二六歩 ▲四四歩
- △二五歩 ▲三三角 △四八銀 ▲三二銀
- △五六歩 ▲五四歩 △三六歩 ▲四三銀
- △六八王 ▲六二銀 △七八王 ▲五三銀

「七二飛車」が袖飛車でありますから注意して下さい。かうして圖の上で見ると、どうも先手の方がつつと有利の位置ではあります。定跡としてはいつも先手の方が有利にされてゐるのですが、これは又後手は後手としてだけの力でもつて中途に色々と變化の方法がひそんでゐるのであります。

◇石田の圖解 (先手)

この方法は石田と云ふ姓の人が案出したものである所から出たのです。併し中年になつてから此の石田を破る方法が発見されてからはどうも先手にはこの展開が不利である所から今ではだん／＼この法で行く人が減つて來ました。しかし乍らこれも立派な一つの駒組として今日までのこされてゐるのであるから、力のある指し手には仲々捨て難い面白味のある方法なのであります。

- △七六歩 ▲三四歩 △七五歩 ▲六二銀 △七八飛 ▲六四歩 △七六飛 ▲六三銀 △六六歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
	飛				王	皇		
	科	歩	歩	歩		歩		
歩			歩	歩		歩		歩
	歩	歩						
歩		飛	歩					歩
角	歩	桂	銀	歩	歩	歩	歩	
				金		銀	王	
香					金		桂	香

しなの方双 駒持

と又はまたはおうようしん廣用心が肝要であることは申すまでもありません。

◇美濃圍

- ▲五四歩△七八銀▲二四王△四八王
 - ▲三二王△三八王▲四二銀△五八金
 - 左▲八四歩△九六歩▲九四歩△一六歩
 - ▲一四歩△二八王▲五八歩△三八銀
 - ▲七二金△六七銀▲八三金△九七角
 - ▲五三銀△七七桂▲四二金
- 石田組はこれにてよいのであります。非常ひじょうに變化へんくわに富とんだものです。度々云ふことですが指すときよく注意と記憶

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科		科				科	皇
	王	銀		科	飛	銀		
	歩	歩	歩			角	歩	
歩				歩	歩	歩		歩
							歩	
歩		歩		歩	歩	歩		歩
	歩		歩			桂		
	角	王		金	銀		飛	
香	桂	銀	金					香

(圖の濃美方手後) しなの方双 駒持

とが、特に肝要かんえうでありますから、加筆かひつしておく次第しだいであります。

- △七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△三六歩
- ▲四二飛△五八金右▲六二王△六八王▲七二王△七八王▲五二金右△一六歩▲一

此この美濃圍のみのみは先手せんてとしては手後てごれとなるのでこのごろではあまり用ひてゐないやうであります。て後手方ごてかたとしてはたまにこの手をやる人があります。やれば非常に堅固けんこで、仲々破れるものではありません。併し惜おしいことには、敵てきに角と桂とを渡して了しまふとどうも負けやすくなる點てんがいけないのです。この點てんに注意ちういして指す人は頭あたまを用ひるこ

四歩△四六歩▲三三角△二五歩▲九四歩△九六歩▲八二王△三七桂△七二銀
 先づはこれ以後手が四筋へ廻つて、王を美濃圍みとしたのであります。この駒組
 が出来たら後は各自の指し口でどしどし変化して行くのであります。

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇				香	王	科	科	皇
				香	王	科	科	
		科	科	香	香			
香	桂	香						香
		香						
		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
		歩	角		歩	歩	歩	
			銀	飛	銀	金	王	
				金			桂	香

(組駒の車飛間四手後) 駒持 双方にしな

◇後手四間飛車

(先手は居飛車)

これは飛車が四筋へ廻るから四間と云ふのであります。
 先手四間はあまりよくないのであつて、おもに後手が用ひる手段です。
 △七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩
 △二五歩▲三三角△四八銀▲三二銀

△五八金右▲四二飛△五六歩▲五四歩△六八王▲六二王△七八王▲七二王△九六歩▲九四歩△一六歩▲一四歩△三六歩▲八二王△三七桂▲六二銀△二六飛▲七二金△五七銀
 以上で四間飛車の駒組のだんどりが出来上つたのです。しかし、この四間飛車は先手には不利であつて、後手が四間飛車のときには先手が居飛車であるのがいゝのです。

◇中飛車

此の平手中飛車は名人大家の將基には殆んどないと云つても過言ではないのであります。たゞ香落の時にはよく使はれることもあります。
 後手が中飛車で組んで来たときには、先手は居飛車の方がよいようです。此の受手にはよく素人が敗れて負けるものですから、中飛車の受け手が達者でないとう

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科		零	零				皇
	王	譯		遊				
	車	車	車		車	車	車	
車			譯				歩	車
歩		歩	歩		歩	歩		歩
	歩		銀	歩	銀	桂		
	角	王					飛	
香	桂		金					香

しなの方双 駒持

も負けになるのが多いのであります。ですから次の駒組に就いてよく研究し、考慮しなくてはなりません。

- △七六歩▲三四歩△四八銀▲五四歩△四六歩▲五五歩△四七銀▲五二飛△六八王
 - ▲六二王△七八王▲七二王△六八銀
 - ▲四二銀△六六歩▲五三銀△六七銀
 - ▲六四銀△二六歩▲八二王△二五歩
 - ▲七二銀△三六歩▲三三角△九六歩
 - ▲九四歩△一六歩▲一四歩△三七桂
 - ▲五一金右
- この圖のやうにやれば完全に中飛車の駒組が出来上つたのであります。しかし相手も亦完全に對抗すべく陣容が

整つたのであるから愈々戦端となれば仲々容易ではないのであります。で中飛車は敵がその受手を心得てゐるときには指すべきではないと云つてよいのです。しかしかくなれば先手がよくなつて仕舞つたのですから、なか／＼負けるものではありません。

◇向 飛 車

次に向飛車の駒組の次第を示してみることにしませう。

- △七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△二五歩▲三三角△四八銀▲三二銀△五六歩
 - ▲五四歩△三六歩▲四三銀△六八王▲三二飛△七八王▲六二王△五八金▲七二王
 - △四六歩▲五二金左△五七銀▲六二銀△一六歩▲一四歩△二六飛▲五三銀△九六歩
 - ▲九四歩△三七桂▲七四歩
- これに向飛車の駒組の順序が出来あがつたのであります。

◇雁 木 (引角)

次に雁木の駒組を記しませう。これは他稱「引角」とも云つてゐるものであります。これは駒組に於て「王」を雁木の形に圍むのであります。

- △七六歩▲三四歩△二六歩△四四歩△四八銀▲三二銀△五六歩▲五四歩△三六歩
- ▲四二飛△五八金右▲六二王△六八王▲七二王△七八王▲六二銀△一六歩▲一四
- 歩△二五歩▲三三角△六八銀▲九四歩△九六歩▲八二王△七七銀▲七二金△七九
- 角▲四五歩△六六歩▲四二銀△六七金

この後は先手の打ちかけによつて、色々に變化をして行きますから、これからの指方で樽圍ひにも變化する事が出来るのですからなか／＼やりかたて面白味の多い駒組であります。併しこゝて注意しなくてはならないのは先手が「五五歩」突いて來るとよつほどこつちが腕のすぐれてゐない限り、非常な不利益となりますから

おぼえておいて下さい。ですからその前に三ノ筋より猛然とたゝかひを開いて行くのがよいとされてゐます。これは仲々變化に富んでゐますから將棊としても六つかしいのであります。

◇三 筋 (先手居飛車)

これは飛車を三ノ筋に廻して戦ふところから三筋と名づけられたものであります。此れは大がい後手の廻り合せの時に組むものであります。もし先手でやるとしたら大へんに不利であるのですからよした方がいゝのであります。

- △七六歩▲三四歩△二六歩▲四四歩△二五歩▲三三角△四八銀▲三二銀△五八金
- 右▲四三銀△八六王▲三二飛△七八王▲三五歩△四六歩▲六二王△一六歩▲一四
- 歩△五六歩▲五四歩△九六歩▲九四歩△四七銀▲七二王△六八銀▲四二角△四五
- 歩▲三四飛

これが三筋の駒組は出来ました。このときは先手が居飛車であるのです。

◇香車落 (左香落)

左香車落は二段違ひではありませんが平手に近いものではありませんが、下手のみになつてこの將基に向ふとなると非常に悪戦苦闘ですから、この指し口はよほど苦心して指さなければなりません。これには色々定跡にもありますけれども、ここでは、本定跡の駒組を書くことにいたしませう。

- △七六歩▲三四歩△六六歩▲八四歩△七七角▲九四歩△七八飛
- ▲九五歩△六八銀▲六二銀△四八王▲四二王△三八王▲三二王△一六歩▲一四歩
- △二八王▲五二金右△三八銀▲九二飛△九八飛▲九四飛△六七銀▲七四歩△同歩
- ▲同飛△七八飛▲七五歩△五八金右▲六四歩△五六歩▲九六歩△同歩▲同香△五
- 五歩▲同角△九七歩▲同香△同桂

以上で香車落ちの駒組は出来たのであります。これからいよいよしかけやうで色と變化を始めるのであります。

九	八	七	六	五	四	三	二	一	九
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

駒持 上手 下手 角△ 角▲ 歩△ 歩▲

◇左香落

(下手一八飛廻りの分)

前に於て従來の定跡の駒組を示したのですから次には比較的によく一般に利用されてゐる、下手かたの一八飛車廻りの駒組を示すことにします。

- △三四歩▲七六歩△四四歩▲三六歩
- △三五歩▲二五歩△三三歩▲六八王
- △三二飛▲七八王△六二王▲四八銀△七二王▲一六歩△八二王▲一五歩△七二銀

▲五八金右△四二銀▲一八飛△一二飛▲一六飛△四三銀▲三六歩△同歩△同飛△
 三二飛▲三五歩打△九二金左△一四歩▲同歩△同香▲四五歩△三三角ナル▲同飛
 △三四歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇			逃			王	王	皇
						香	香	
		香	香	香	香			
香	香	香	香	香	香			
						歩	歩	
						銀		
					角			
					歩			
							飛	
							桂	
								香

歩 駒持

此の角落ちには、その指し方によつては色々方法もありますが、こゝに示す一般普通にやつてゐる。槽圍、銀象眼、金象眼二二飛車廻りなどがその主たるものであります。

△六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩
 △七四歩▲七八銀△六四歩▲六六歩

◇角 落

△九四、▲九六、△四二銀▲二六、△三三▲二五、△五三銀右▲五八金△四一王
 ▲四八銀△六二金▲三六歩△四四歩▲三五歩△四三銀▲三七銀△三一王▲三六銀
 △七二飛▲七七銀△六三金▲七九角△七五歩▲同歩△同飛▲七六歩△七一飛
 △六七金△七四金▲六八王△八四歩▲七八王△二二王▲八八王△六一飛▲七八金
 △七三桂▲四六角

以上の如くて角落槽圍の駒組は出来たのであります。これから指し方一つて色と變化をどしく生じて行くのでありますから大いに研究し、考へて指さなくてはならないのであります。

◇角落銀象眼

これは上手か王を銀二枚で圍んで象眼のやうにする處から銀象眼と云ふのであります。しかし此の場合には下手は王を右の方へ廻して美濃圍ひとしておいてから、

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇				皇			料	皇
	王	料				飛		
	飛	料	料		飛		歩	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩
							歩	
							金	歩
							桂	
							飛	
香								香

駒持 双方しな

(上銀象眼 下銀冠の圖)

- △四八銀▲五六歩△五六歩▲五四歩
- △五七銀▲三二銀△四六歩▲四四歩
- △三六歩▲四三銀△五八金左▲三二
- 飛△四七金▲六二王△二六歩▲七二
- 王△二五歩▲三三角△一六歩▲一四
- 歩△三八金▲五二金左△六八王▲九
- 四歩△九六歩▲八二王△六六歩▲六
- 四歩△六七王▲七二金△七六歩▲七
- 四歩△六八銀上ル▲八四歩△八六歩

金銀をもち上げて、さうして銀を王の頭へ冠むせるのであるから銀冠の定跡とも云はれてゐます。これを本定跡としてある位ゐてすから、なか／＼興味の多分にあるものであります。次にこの駒組の順序を書きしめませう。

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇							料	皇
		料					飛	
	王	料	料			歩	歩	
歩	歩	歩	歩	歩				歩
						歩		
							銀	
歩	歩	歩	歩	歩				歩
							桂	
	王	金		金			飛	
香		白						香

八三銀△三七金スグ▲七二金△七七桂▲六三金△二六金▲五一角引△三七桂△七三桂

以上でやつとははては銀象眼の駒組が出来上つたのであります。そして下手の力は銀冠の駒組を終つたのであります。

は銀冠の駒組を終つたのであります。そして下手の力は銀冠の駒組を終つたのであります。そして下手の力は銀冠の駒組を終つたのであります。

◆二二飛車廻り

- 次に二二飛車廻りの駒組を示します
- △六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩
- △六四歩▲六六歩△五二金左▲七八
- 銀△六三銀▲六七銀△七四歩▲七八

飛△九四歩▲九六歩△五三銀▲三八銀△四四歩▲四六歩△二四歩▲二六歩△二二
 飛▲二七銀△二五歩▲同歩△同歩▲二八飛△二二飛▲二六銀△三二銀▲二五銀△
 二三五歩打ッ▲三六歩△六二王▲三五歩△七二金▲七八王△八四歩▲八六歩△七三
 桂▲七七桂△四二銀▲七九角△四三銀スグ▲一六歩△一四歩▲八八王△八三王▲
 七八金△五二銀▲三七桂
 これて駒組は出来上りました。下手の方が非常に有利な位置となつたわけであり
 ます。

◇飛車落

此の飛車落ちの將棋も大變に多いのでして、こまかな駒組の説明をしてゐては、
 とうていかゝる小冊子では解説しきれないのでありますから、ここには一般的に用
 ひられるものを示しておくことにします。一般には居飛車、角引四間飛車、本定跡

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香
香	桂	王	銀	金	歩	歩	歩	香

△六二銀▲六八銀△九四歩▲九六歩△四三銀▲五八金右△五二金▲七七銀△四五
 歩▲七九角

この最後の七九角によつて、引角の駒組を完了したわけでありませうから、此の後に

ぐらゐのものであつて、このなかでも
 四間飛車はもつとも利あるものとみら
 れてゐます。

◇居飛車、引角の駒組の圖解をやり
 せう。

- △三四歩▲七六歩△四四歩▲二六歩
- △三二金▲二五歩△三三角▲四八銀
- △四二銀▲五六歩△五四歩▲三六歩
- △六二王▲六八王△七二王▲七八王

(組駒の落車飛)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂					王	角	香
歩	歩	角	銀	金	銀	歩	歩	歩
		歩	歩	歩				
香	桂						桂	香

駒持先手方一步つ

て出来上つたのであります。これから分れて色々と策略し乍ら指し始めるのであります。

- △七六歩▲三四歩△六六歩▲六四歩
 - △七八金▲六二銀△六八銀▲六三銀
 - △六七銀▲五四銀△五六歩▲六二飛
 - △五八金▲七四歩△四八王▲五二金
 - 右△三八王▲四二王△四八銀▲三二
 - 銀△五七銀▲二四歩△一六歩▲一四
 - 歩△四六銀▲二三銀△五七金▲三二
 - 王△七七角▲四二金ヨル
- 飛車落ちの駒組の圖解はこれによつ

◇本定跡の駒組の圖解

▲下手方

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香			飛	王	金	銀	角	香
歩	歩	桂	歩	歩	歩		歩	歩
		歩	歩	銀				
		歩	歩	歩				
歩	歩	桂	銀	銀	歩	歩	歩	歩
	角	金				王		
香					金		飛	香

△上手方

於てただ指し手の手練によつて色々變化を生じ、勝負を決するのでありますから、此の將棋は下手方の方に有利なものであります。

◇四間飛車の駒組の圖解

- △七六歩▲三四歩△六六歩▲三二銀
 - △七八金▲六二銀△六八銀▲六四歩
 - △五六歩▲六二銀△六七銀▲七四歩
 - △四八銀▲五四銀△七七桂▲六二飛
 - △五七銀▲五二金右△四八王▲七三
 - 桂△三八王▲五六歩
- これによつて下手が有利に陣營を張つたので、五六の歩によつて指し始めるのであります。

◇飛香落 (一丁半)

飛香落と云ふのは、飛車と、香車とを落すのを云ふのであります。通稱によく(一

丁半)とも云はれてゐます。

これには端飛車、引角、角換りなどとありますけれども、端飛車が一番最初の研究的のさはりとして良い將棋であります。これは下手方には非常に手数がかからなくて駒組の順序などが覚え易いのでよくやるものであります。

◇飛香落定跡の駒組の圖解

△七八金▲三四歩△七六歩▲八八角

面局のてま車飛二二方手下落香飛)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科		香				科	皇
		王		香			香	
	香	香	香	香	香			
			歩			香	香	
		歩	角	銀	歩			
	歩		桂	歩	銀	歩	飛	歩
			金		王	金		香
							桂	

方手上△

△八八銀▲二二銀△三八金▲三三銀△四八銀▲四二飛△五六歩▲六二王△五七銀
▲七二王△五八王▲五四歩△七七銀▲六二銀△六六銀左▲四四銀△四六歩▲三五
歩△七五歩▲六四歩△七六角持▲六三銀△八六歩▲五二金左△七七桂△二四歩△
四八銀▲二五歩△四七銀▲二二飛

此の將棋は、飛車、香車落ちてあります。上手方には大駒が一枚あるのですから下手方もよく注意をして、そのことを忘れずに、手順をうまくやつて攻め、守る共によろしきを得なければなりません。

◇酒徳利の駒組の圖解

下手方は、上手方の手うすな點をうまくねらつて、飛車とか、香車とかでもつて敵の急所を指してやらねばなりません。これはどうしても敵の戦力がすごいのであるから勝利目がうすいのですから。下手方は周到なる注意のもとにこの定跡をよくのみこんでみてどしどしやるべくやつてゆけばいいので、これをよくおぼえておか

(落香飛)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	爵	丞				科	
		王				丞	皇	
	科	科	科		爵		科	科
科				科	科	科		
歩		歩					歩	
	歩		歩	歩	歩	歩		飛
	角		金			銀		香
香	桂	銀		王	金		桂	香

上手方

下手方

歩 駒持

なくではなりません。しからば負けることなどあるものではありませんから。
 △七六歩▲三四歩△七八金▲六二銀△六八銀▲四二王△三八金▲三二王△二二角
 ナル▲同銀△七七銀▲三三銀△四八銀▲五二金右△三六歩▲五四歩△三七銀▲四
 四歩△五八王▲四三金△一六歩▲九
 四歩△一五歩▲九五歩△八八金▲五
 三銀△四六銀▲八四歩△三五歩▲同
 歩△三五銀▲八五歩△二六歩▲八六
 歩△同歩八▲五歩△八五歩▲同飛△
 七五歩▲八七歩△七六銀▲八二飛△
 八七金▲九八角打▲九六歩△同歩▲
 同香△八八歩▲八七角ナル△同歩▲
 八八歩△七七桂▲七九金打

(圖のち落車香車飛)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	爵	丞				科	
		王				丞	皇	
	科	科	科		爵		科	科
科				科	科	科		
歩		歩					歩	
	歩		歩	歩	歩	歩		飛
	角		金			銀		香
香	桂	銀		王	金		桂	香

上手方

下手方

歩 駒持

以上で下手方の方が勝つことになるのであります。
 ◇端飛車の駒組の圖解
 △七六歩▲三四歩△六六歩▲九四歩△七八金▲九五歩△六八銀▲九二飛△五六歩
 ▲七二銀△四八王▲四二金△三八王
 ▲八四歩△一六歩▲一四歩
 これでもつて端飛車の駒組がをはつたのであります。これから先手の仕かけて戦端が開られるのであります。
 ◇引角の駒組の圖解
 此の定跡をやるのであつたら相當の自信がなければやらないのである。てあるから餘程熟練を要するのであります。

す。しかる後に於て試みるのはいゝがさもないときにはやらぬ方がいゝとも云へます。しかし將棋の一般に通じたい人は大いに研究されることはもちろぬのであります。たゞ未熟でこれをやると中盤以下でまぎれて了ひ、多く下手方の利なく

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	角	金	王	銀	飛	歩	香
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩
歩	歩	歩	銀	歩	桂	歩	歩	歩

持駒 角桂歩歩歩 下手方

- 終ることありますから、くれぐれも御注意申し上げる次第であります。
- △七六歩▲三四歩△六六歩▲八四歩
- △七八金▲八五歩△七七角▲七四歩
- △六八銀▲六二銀△六七銀▲五四歩
- △五六歩▲五二金△四八王▲九四歩
- △三八王▲九五歩△四八銀▲七三桂
- △一六歩▲一四歩△五八金▲三二銀
- △三六歩▲三一角△六五歩▲三三銀

△五五歩▲同歩△同角▲四四銀
以上で駒組が出来あがつた圖であります。しかし、この手で指しかけると、これは非常に變化に富まねばならないのでありますから、どうしても、敵すなはち、上手方に乗ぜられる機会が多いのであります。そして仲々に苦境にもおち入りやすいのでありますから大いに注意が肝要であることは申し添へるまでもありませんが、これは充分にこの定跡を腹に入れてからのちよく、研究して指されることをおすすめ致します。

◇二枚落 (飛車角落)

此の二枚落には、その駒組にいろく種類が多いのであります。次に圖解したのはその主なるものの例であります。そして極く一般に行はれてゐるものですからその點を考慮して大いに研究、練習に意を用ひられることを特におすすめ致します

(圖面局のてま歩四七)

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲上手方	香	桂	銀	飛	王	金	歩	歩	歩	香
▲下手方	香	桂	銀	飛	王	金	歩	歩	歩	香

傳 他 金

- △四八銀 ▲三四歩 △五六歩 ▲六四歩
 - △五八金右 ▲六五歩 △五七金 ▲五四歩
 - △四六金 ▲五二金右 △四五金 ▲六三金
 - △五七銀 ▲六二銀 △八八銀 ▲五三銀
 - △四八王 ▲六四銀 △三四金 ▲三二銀
 - △四六歩 ▲五二飛 △四七王 ▲六一王
 - △二六歩 ▲七二王 △二五歩 ▲一香
 - △三六歩 ▲七四歩
- 此の他傳の趣旨は一氣に勝を制せる

その向ふ所は一つではありますけれども、駒組には多少の變化があることを知つて下さると思ひます。

○金他傳の駒組の圖解

◇五五歩止めの駒組の圖解

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
▲上手方	香	桂	銀	飛	王	金	歩	歩	歩	香
▲下手方	香	桂	銀	飛	王	金	歩	歩	歩	香

此の他傳駒組の中には、金他傳、銀他傳と云ふ種類があります。此の兩方ともに

- △五六歩 ▲三四歩 △四八銀 ▲六四歩
 - △五七銀 ▲六五歩 △五五歩 ▲六二飛
 - △五六銀 ▲七二銀 △六八銀 ▲七四歩
 - △五七銀 ▲七三銀 △四六銀 ▲六四銀
 - △五八金右 ▲五二金右 △五七金 ▲三二金
 - △五八王 ▲四二銀 △三六歩 ▲四一王
 - △三七桂 ▲三三銀
- これにて巧みな駒組が出来たのであります。

(圖面局の組駒傳他)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香				王			香	香
		王	香				香	
			香					
							步	步
				步		步		
				銀	王	桂		
香	桂							香

步方手下 步方手上 駒持

と云ふやうな意力でもつて指す將棋ではないのでありますから、よくその點を考へて指すべきであります。

◇他傳の駒組の圖解

これは普通一般には、たんに他傳と云はれてゐるものです。

- △五六步▲三四步△五八金右▲六四
- 步△五七金▲六五步△四六金▲七四
- 步△七八金▲七五步△六八銀▲五四
- 步△四五金▲五二飛△八六步△四二
- 銀△四八銀▲五三銀△五七銀右▲六
- 四銀△五八王▲六二銀△四六步▲六
- 三銀△三四金▲三二金△四七王▲六

- 二王△四五步▲五五步△五五步▲同飛△五六步▲五一飛△三六步▲七二王△三七
- 桂▲六二金△二六步▲七三桂△二五步▲一二香△一六步▲八四步△一五步▲七六

此れて他傳の駒組を了つたのであります。これは下手には有利な展開を示すものでして此のあとを大いに注意して指さなければならぬのです。さうしてこれであれば負けとなるやうなことは注意一つで如何ともなるのでありますから、十分なる研究をされるやうにのぞみます。

◇三步突切り

次に三步突切りの駒組の圖示を致しませう。

- △四八銀▲三四步△五六步▲六四步△五七銀▲六五步△六八王▲七四步△七八王
- ▲七五步△六八金▲八四步△三八金▲八五步△三六步▲六二銀△三七金▲六三銀

(圖面局のり切突歩三)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇					王		将	皇
				香	香		香	
香		将	香	香			香	
		香				香		香
歩		香	香				歩	
				歩	金	歩		歩
	歩	歩	歩	銀	歩	桂		
	歩	王	金					
香	桂							香

歩後 先 駒持

ればかならず勝つことの出来る將基であります。さうは云ひましても大駒の二枚も落してゐるのですから先方は、仲々大した腕前の持ち主でありますから、ほんのわずかな氣でもゆるしたり。隙したりしようものなら上手方にすぐ「バメ手」を食つ

△八八銀▲八六歩△同歩▲同飛△八七歩▲八四飛△一六歩▲一四歩△九六歩▲五二金右△九五歩▲三二金△二六歩▲四一王△四六金▲四二銀△三七桂▲七三桂△二五歩▲七四飛先づは以上で三步突切りの取組の局面が出来上りました。併しこれはもともと上手方は二枚の大駒を抜いてあるのですから、下手方が巧みに順當を得

◇古流中飛車

て非常な苦闘に落ちることがあるものですから、この點に大いに氣を用ひねばならない將基であります。一言注意までにくたくしくも申しあげる次第であります

茲には中飛車の駒組の圖解を書きつけませう。

- △六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩△四二金▲七八銀△五三金▲六六歩△七四歩
- ▲六七銀△六四歩▲四六歩△六三銀▲五八金左△四四金▲四七金△七二金▲三六歩△四二銀▲三七桂△五五歩▲四五歩△五五金▲五八飛△五四金▲五五歩打△五三金▲五六金△七三桂▲七七桂△三四歩▲七九角△三三銀▲三八銀▲六二王▲四七銀△九四歩▲九六歩△一四歩▲一六歩

以上で中飛車の駒組は出来たのであります。此の將基は先手方も後手方も共に中途から非常に力が入るものであるから、そのつもりでなければ否かゝらなければ

ならないのです。又それだけに面白味もあると云ふものです。

◇上手端崩し

九	八	七	六	五	四	三	二	一
	科					科	曼	
			王		爵	零		
		糸	糸	爵	糸	糸	糸	
						步		
	桂				步			
	步	零	角		銀			
香	糸		步	步			步	步
糸		金	銀	金	飛			香
			王				桂	

歩歩香 駒持

次には上手端崩しの圖解を書き示します。

- △六二銀▲七六歩△五四歩▲四六歩
- △五二金右▲四五歩△五三金△三六
- 歩△六四金▲四八飛△五三銀▲三八
- 銀△三二金▲三七銀△四二銀上ル▲
- 四六銀△六五金▲五八金右△六二王
- ▲七八金△八四歩▲六九王△八五歩
- ▲六八銀△九四歩▲三五歩△七六金

- ▲九八香△九五歩▲三四歩△八六歩▲同歩△八七歩打ッ▲九九角△九六歩▲同歩
- △同香ナル▲同桂△九六歩打ッ▲八五桂△九七歩ナル▲同香△九八歩打ッ▲六六
- 角

これて上手端崩しの駒組はしをはつたのであります。

◇三 枚 落

これは従來の定跡にはないのであります。名人大家が考へ出したものですが参考までに次に駒組を書くことにします。勿論素人には普通要のないものと云つても過言ではないものですからそのおつもりで一應調らべておいていただきませう。さうすれば決して無駄ではないのであります。初心者は色々と修道の途にあるのですから、大いにその見聞と研究範圍とを廣めて、大體の智識を養ふのも無駄ではありません。

△四八銀▲三四銀△五六歩▲九四歩△五七銀▲九五歩△八八銀▲九二銀△七八金
▲九六歩△同歩▲同飛△九七歩打▲九二飛△五八王▲七二銀△三八金▲八四歩△
三六歩▲六四歩△三七金▲六三銀△四六金▲五四銀△三七桂▲五二金右△二六歩
▲三二銀△二五歩▲三三銀△三五歩▲同歩△同金▲四四銀

◇四枚落 (飛車、角、兩香落)

☒其 一

△六二銀▲二六歩△三三金▲二五歩△二二銀▲二四歩△二四歩▲二四飛△二三金
▲二八飛△二四歩打▲七六歩△三四歩▲二二角ナル△同銀▲二四飛△三三角打

☒其 二

△六二銀▲一六歩△三三金▲一五歩△二四歩▲九六歩△七二金▲九五歩△八四歩
▲二六歩△二三金▲九四歩△九四歩▲同香△九三歩打▲同香ナル△同桂▲九四歩

打△八五桂▲九三歩ナル△七四歩▲七八銀△四二王▲八六歩△七三金▲七六歩△
七五歩▲八五歩△同歩▲三五桂打△三四金▲二三桂ナル

☒其 三

△四八銀▲九四歩△五六歩▲九五歩△五七銀▲九二飛△七八金▲九六歩△同歩▲
同飛△九七歩▲九四飛△八八金▲九三桂△八六歩▲八四飛△八七金▲一四歩△三
八金▲一五歩△二八金▲九八歩打△八八銀▲一四飛△六六歩▲一六歩△同歩▲同
飛△一七歩▲一四飛△四六歩▲一三桂△二六歩▲二四飛△二七金▲一八歩△三六
歩▲一九歩ナル△三七桂▲一八と△一六歩▲二八と△二八金▲二六飛△二七歩▲
一六飛

☒其 四

△四八金▲九四歩△五六歩▲九五歩△五七金▲九二飛△八八銀▲九六歩△同歩▲
同飛△九七歩▲九四飛△七八金▲一四歩△五八王▲一五歩△二八銀▲九三桂△八

六歩▲同飛△一七歩▲一四飛△八七金▲一三桂△二六歩△一八歩

◇五枚落

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
	香								一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九
	香	桂	銀	金	王	金	飛	桂	

持駒 下 上方手 下方手 銀歩 歩

此の五枚落ちと云ふのは四枚落ちの上、なほ更に桂一枚、即ち都合五枚落とするのであります。此の際桂を落とすのに、左と右とありますから、それによつて駒組も大いに差が出て來るのてあります。

◇左桂落の其一

△三二金▲一六歩△二二銀▲一五歩
△二四歩▲二六歩△二三金▲三八銀

△三四歩▲二七銀△三六銀▲三六銀△四二王▲二五歩△二五歩▲一四歩△一四歩
▲二五銀△二四歩打▲一四銀△同金▲同香

◇左桂落の其二

△七八金▲八四歩△八八銀▲五四歩△五八金▲三二銀△六六歩▲三一角△六七金
右▲九四歩△七六歩▲九五歩△七五歩▲同角△七六金▲三一角△八六歩▲七四歩

◇左桂落の其三

△八八銀▲九四歩△七八金▲九九歩△六八王▲九二飛△五八金▲九六歩△同歩▲
同飛△九七歩▲九四飛△八六歩▲九六歩△八七金▲九七歩ナル△同金▲二四飛△
二八銀▲九七香△同銀▲三八金打△二六香打▲九四飛△九六歩▲二四歩

◇右桂落の其一

△三八金▲三四歩△二七歩▲四四角△二七金▲一四歩△三六歩▲一五歩△五八金
▲二四歩△六八王▲二二飛△二八銀▲二五歩△同歩▲同飛△二六歩▲同歩△二六

金▲同飛△五五角▲二九飛△三五歩▲五四歩△三七角▲二六歩
右桂落の其二

九	八	十	六	五	四	三	二	一	
						王	香	香	
		香	香	香					
	香	歩	歩						
			飛	歩					
				歩		歩	歩	歩	
				歩	角	金	銀	桂	香
				金	王	金	銀	桂	香
				歩	歩	歩	駒持		

△七二金▲七六歩△八二銀▲六六角△七四歩▲九六歩△六四歩▲五六歩△四二王
▲五七角△五二金▲九五歩△七三金
▲八八歩△五四歩▲九四歩△九四歩
▲同香△八四金▲九八飛△九五歩打
▲九二香ナル△七三銀▲八八飛△七
五歩▲同歩△九六歩▲八五歩△九五
金▲六八角△九七歩ナル▲同桂△九
六金▲七八飛△六三金▲八八銀△八
四歩▲七六飛

◇六 枚 落 (普通金銀)

俗に云ふところの金銀將棋であります。前述した五枚落と大した差があるのでは
ありませんが、六枚落には又六枚落とした理由のうちにはちやんとした定跡があり
ます。これから順々にその六枚落の駒組を書き示して便に供することにします。い
くども云ふやうに、よく研究的態度でやつて下さらなくてははいけないのです。

◇其 一

△四二王▲七六歩△六二金▲六六角△八二銀▲五六歩△二二銀▲五七角△三二金
▲一六歩△三四歩▲一五歩△三三金▲一四歩△同歩▲同香△二四金▲一八飛△一
五歩▲二四角△同歩▲一二香ナル△三三銀▲一五飛

◇其 二

△七二金▲七六歩△二二銀▲六六角△八二銀▲九六歩△六四歩▲五六歩△七四歩

▲九五歩△七三金▲九四歩△九四歩▲同香△八四金▲同角△同歩▲九二香ナル△
 七三銀▲九八飛△四二王▲九三飛ナル△六二銀▲七五歩

				零						
一				王						
二				香	香	香	香			
三										
四										
五										
六										
七										
八										
九	金									
	龍									

持駒
 上 王 金 銀 桂 香
 下 王 金 銀 桂 香
 方 角 方
 手 手
 歩 歩

其 三

此の圖に於ては六二銀までの局面であ
 ります。▲七五歩の處で、他にも指し
 方があればよいと思つた方にするに限
 ります。これもやはり研究によらねば
 さうした力は得られないのですから、
 この點に留意されたいのです。此のと
 き下手入れに香が化するのがあります
 けれども、七五歩は敵陣をおびやかす
 のに最大好適であるのです。

△三八金▲三四歩△七八金▲四四角△二八銀▲一四歩△五八王▲一五歩△二六歩
 ▲同角△三六歩▲一六歩△二七金▲四四角△一六歩▲二四歩△二六歩▲二二飛△
 四六歩▲五四歩△三七銀▲三三桂△五七桂▲五六歩△一七歩▲六八銀△一八金ナ
 ル▲五七銀△一七と▲同金△二五歩▲四七王△二六歩▲二八歩△二五桂▲一八金
 △一六香

其 四

△四八金▲三四歩△八八銀▲四四角△二八銀▲一四歩△四六歩▲五四歩△三六歩
 ▲一五歩△三七金▲一六歩△一六歩▲同香△二六金▲一二飛△一五歩打▲二六角
 △二六歩▲一八香ナル△三七銀▲一五飛△五三角打▲四二銀△八六角ナル▲八五
 金打△同馬▲同飛△六八王▲一五飛△七六歩▲一七飛ナル△四八銀▲二八香ナル

其 五 (上手がハメ手を指した時のこと)

下手が定跡にあかるいときには、上手方が如何になれた指し手であつても勝ち目

がおぼつかないものであるから、その時に用ひる手段として、上手方は上手の力で下手を誘ひにかけて「ハメ手」を指してかゝるのであります。これでうまく下手がうつかりと乗つて來たらもうとりかへしがつかなくなりす。

それでこの「ハメ手」を以下に書き示すことにしますから、よく覚えて下さい。

△三八金▲三四歩△七八金▲四四角△二八銀▲一四歩△六八王▲一五歩△二六歩

▲同角△二七金▲四四角△七六歩

こゝで上手方の七六歩が「ハメ手」であります。角道を開けて、角をならせるやうに指しておいて、之れによつて角に化ると次は

▲九九角ナル△八八銀▲九八馬△七九金▲八四歩△七八王▲八五歩△八九金

これで角が死んで了はなければならなくなつたのです。だから上手方が誘ひの手すなはち前にも云つた「七六歩」と指したのでありますから、此の時下手方は「七六歩の時」

▲二四歩△三六歩▲二五歩△三七銀▲二二飛△四六歩▲五四歩△三五歩▲同角
以上でたいはいは下手が、勝ちを制するのであります。

◇結言

先づ大體今まで述べ來つた以上の駒組を以て將棊に入門する一般の知識は與へられたのであります。これ以後については大いに、腕をみがき、研究的態度と、練習に。熱意とをもつて他の「崩し方」をならはねばなりません。さうしてこそ始めて將棊道の本道に入つたもので、素人ばなれした指し方になることが出来るのであります。

この將棊を指して楽しむことに於ての一番要諦はなんと云つても、おろかせに出來ないのは、先づ最初の出である。即ち「歩」の突き出しにあります。そして最後は敵の「王將」を詰めてぐらの音も出なくさすとめす指す處までがこれが大切で

ないと云ふところは無いのですけれども、その際に於て、如何なる實戦上にあつても必要なものは、駒組と詰手とが、最大肝腎であるのであります。

でありますから、充分なる研究によつて今まで累々と述べました、駒組をしつかりと覚え込んで、しかる上になほ後に詰手の練達を得て、はじめて實術の手合せをやれば、負けたにしろその本筋の手の奇麗さに自づから不快な氣にはならず敵もさる人なりと内心驚奇を感ずるのであります。だから將棋を指す時は正々堂々と本道で戦を花々しくやれば、勝ば一入よく、負けてもその負けた理由に立派な缺點を發見出来、その負け方に散々なみじめさを與へられると云うやうなことは決してなくなるのであります。

これから、例へかゝる定跡を一つ二つ覚えてたからとてみぐるしく天狗になつて了ひ吹聴して歩いたりせず、一入の注意と熱誠とをもつて指してゐれば自づと人間としての修養にもなり、大へんさはやかな生活的に又精心的に樂しみが深くなるので

す。これに反して天狗でございとおさまると、所謂殿様將棋になつて了つて固まり腕は、らず、人には笑はれ、實質が伴はず人品を下げ、將棋指しの將棋知らずとなつておはれない「ザル將棋」となつて了ふ怖れがありますから、諸君は、決してかかる邪道へははいらずと大いに研究心にとんだ碁家となられんことを希望する次第であります。

次に少々將棋を指す上の金言を個條書にして皆様の參考資料に供しますから、この言葉は名人大家の言ですから即ち將棋を指す人の金科玉條であるのです。そのおつもりで心の坐右とせられんことを願つておきます。

- 一、王は何はさておきすみやかにかたをつけるがよい。
- 一、王はどうしても角道をさけねばならない。
- 一、王は一手前に逃げるのがよろしい。
- 一、王はきつと逃げるによい手があるものである。

- 一、金、銀は王の側にあるがよいのです。
- 一、飛車とか角は捨場がかんじてあります。
- 一、飛車、角の道をふさぐやうなことは負け將棋の原因となります。
- 一、成つた角は手前で用ひるのがよろしい。
- 一、成つた飛車は敵陣であげれるが有利である。
- 一、金は進むのに早く、退くにおそいものである。
- 一、金や銀を歩のあたまへ上ることは禁じたい。
- 一、金は横に働かすがよい。
- 一、銀は千鳥に使ひこなせば可。
- 一、香車は端の仕かけに大事な駒であります。
- 一、角落、飛落は惜まず、大局を考へよである。
- 一、端歩はみだりに突かぬが徳、よく手後となるものである。

- 一、手持ちの歩は大切にするのが利巧です。
- 一、歩を打つ時は敵地へ打つものがよい。
- 一、持駒は打つた後のことを考へてからにしたい。
- 一、持駒は大切にすべきであります。
- 一、持駒は？と問ふのはまだ素人である。
- 一、駒と駒との道を考へてゐなければならぬ。
- 一、はたからの助言は失禮である。
- 一、敵に考へる時を與へなければいけないことである。
- 一、駒待は充分考へ打つものである。
- 一、待駒をうたれるやうな隙を與へてはならない。
- 一、マツタは負けたも同様であることを忘れてはいけぬ。
- 一、マツタはくせになりやすいものであります。

第一圖

九	八	七	六	五	四	三	二	一
				王	零			
香							香	
		香		香	香	香	香	香
	香	香	香				香	香
飛							香	
		歩		歩				
	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
			銀					
	桂	金	王	金	銀	桂	香	

歩歩 駒持

△六二金▲七六歩△二二銀▲六六角△八二銀▲九六歩△六四歩▲五六歩△七四歩
▲九五歩△七三金▲九四歩△九四歩▲同香△八四金▲九八飛イ△九五歩打▲八四

角△八四歩▲九二香ナル△七三銀▲
九五飛ロ△五七角▲六八銀△二四角
ナリ▲二五金打(以上第一圖の盤面)
上圖の變化として
イ△九五歩ヲ△七三銀ト打ツタ場合
は▲九三香ナル△九五歩打▲八四角
ハ△同歩▲八三王△六二銀▲九五飛
△四二王▲九二飛ナル△五二金▲四
八金と指してから王にてよるのであ
ります。

- 一、先づ勝つ事よりも、負けることに氣をつけるものである。
- 一、王筋の將基は手が多い。
- 一、早くうまくなりたければ定跡を研究すればよいのである。
- 一、名人大家の對局に目を据へよ。
- 一、駒組の定法は双方がよい手を選ぶのですから、もし定法外れの際はあわて、は損てあります。
- 一、一手指す前にもう一度考へてから駒を盤におきたいものである。
- 一、たゞ取つたり、進んだりすることに興味をもつてはいけない。
- 一、攻める前に、防備のことを思ひ出さねば思はぬすきをさらけ出すものである

◇六枚落崩し方

其 一

				王						
香			馬	王		馬				
飛				香	香	香	香	香		
	香	香	香							
		歩		歩						
	歩		歩		歩	歩	歩	歩		
				金						
	桂	銀	金	王		銀	桂	香		

歩歩金 方手下 角 方手上 駒持

				王						
香				王						
飛				香	香	香	香	香		
		香	香							
				歩						
	歩		歩		歩	歩	歩	歩		
				王	金	銀	桂	香		
	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		

歩歩歩金方手下 歩角方手上 駒持

其二

よいのであります。

圖二第

				王						
飛			馬	王		馬				
				香	香	香	香	香		
	香									
	香	香	香							
		歩		歩						
	歩		歩		歩	歩	歩	歩		
				金						
	桂	銀	金	王		銀	桂	香		

歩歩金 方手下 角 方手上 駒持

第一圖の變化

△五七角ヲ△四二王と指したときに、▲九三飛ナル△六二銀▲四八金となつて王は次第によるのであります。

第三圖は此の盤面でありませすから、第二圖第三圖を、参考として充分なる研究をされるとよいのです。かう行くと下手方は全く利があること受合てす又勝となること出来るのです。第二圖の變化は△同歩を同銀と指したときには

- ▲八三王△八五飛▲九五飛△七六銀
- ▲九二飛△五二金▲七三王と指せば

ならないのです。此のやうな工合の上手と後手とをよく覚え込んでおくことは肝要なこととあります。九七飛ナルは早い。

▲九七香ナル△七七王▲七步打△六八金▲八八步ナル△六七王▲八七香△五五步▲七八と△五八金▲七七香ナル△五六王▲九七飛ナル△四六步▲六七銀打△同金▲香ナル△四八銀ヒク▲七七龍△五七銀打▲同香ナル

△五七銀▲五八銀を打てば下手方の勝となるのです。

(ロ)▲同香を上手方に、若し△同金と取つたならば

▲同飛九七步、八七步打、九六步、八八步ナル、同王、八七銀打、七九王、七八金打て、下手の方の勝ちを得るわけとあります。

○盤面以下の指し方に就いて(其二)

上手方八六步、△同步と取れば、下手方はただちに

▲九六步△同步▲同香△八七銀▲九八步△九六銀▲九六飛△八八王▲九七銀△七

圖、一 第

九	八	七	六	五	四	三	二	一					
	科		零	王			科		一				
							零		二				
女手先△	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	歩	三				
									四				
									五				
		歩							六				
▲下手方	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七				
									八				
	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九			
	歩	歩	銀	方	手	下	し	な	方	手	先	駒	持

◇四枚落

九王▲八六銀△八七香▲七九飛てよいことになりす。

○下手、ハメ手崩しに就いて
 △六二銀▲二六步△三二金▲二五步
 △二二銀▲二四步△二四步▲同飛△
 二三金▲二八飛△二四步打▲七六步
 △三四步▲二二角ナル△二二銀▲二
 四飛△三三角打
 これによつて分れとなる時には、上手方の策略におち入つたのであるからその覺悟かなければならないのです。

(面局の打銀八八) 圖二第

	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
	科			零	王			科		一
				零				零		二
	科	科	科	科	科	科			科	三
								科		四
										五
			步							六
										七
	步	步		步	步	步	步		步	八
		銀						飛		九
	留	桂	銀	金	王	王	銀	桂	香	

▲女将手方 ▼ 駒持 上手方 下手方

此の時に於て下手方にイ二八飛ロ三四飛との二種があります。
 イ▲二八飛と指した時には▲二八飛△九九角ナル▲八八銀打ッ
 此の時に上手方に

イ△二三香打△八八ナリ角との二種の指し手があります。
 △二三香打と指したときには(第二圖の以下の如くである)。
 △二三香打▲九九銀△二八香ナル▲二八銀△三二金▲三八金△三三桂▲二四步打
 以上のやうになると、すこぶる下手方に有利に立ちいらります。此のあとに於

て下手方では一二角打、二七香などの指し手があります。二筋に「と」金を作つてももひろに攻め立てると、どうしても敵方は飛車一枚では、防備に苦しくなるので

す。
 または四五桂跳ねのときには六八銀と受けるがいゝのであります。

○第二圖解説以下の指し方ではロ△八八成り角と指したときには

△八八馬▲八八銀△三三銀打▲一角打

此の如く圖示したのですが、下手方ははなはだ勢力を得ることになります。

上手方にはイ△一二金、ロ三二金との二種の指し手があります。

若し上手方が二三銀打のところを△三三銀打とすれば二四步打ち同銀、同飛、二三香打、三四飛、三三歩打ち、二六飛を引くのがいゝのであります。

○第三圖以下の指し方には一上手方の△一二金と指したときには

△一二金▲五五角ナル△二二香打▲五六馬△七二金▲二四步△二四銀▲三四馬△

(面局の打角一一) 圖三第

九	八	七	六	五	四	三	二	一
	科		零	王			科	角
							零	壘
科	科	科	科	科	科		科	
						科		
			步					
步	步		步	步	步	步		步
	銀						飛	
	桂		金	王	金	銀	桂	香

上手方

下手方

駒持 上方手 下方手 歩歩

三三銀▲一二馬△二八香ナル▲同銀△四二銀▲二三歩△三三桂▲二二歩ナル△三
 一步打▲三四馬

此のやうなときでも下手方が有利であつて、上手方は甚だ苦しいのです。

○下手方はかゝる際にと金を活用すれば
 必勝はうけあひです。

○第三圖以下の指し方、二、上手方
 〇△三二金と指した場合には

- △三二金▲二二歩打△二四銀▲二七
- 香打△三五銀▲三一と△四四金▲三
- 三角ナル△五二王▲三二と△五一金
- ▲二二香ナル

かくの如きときでも下手方が勢力さ

(圖面局のてま打歩八九) 落枚四〇

九	八	七	六	五	四	三	二	一
	科						科	
	零					零	零	步
科	科		科	零	王	科	科	
		科						科
								銀
	步							
	步	步	步	步	步	步		
	角						飛	
香	桂	銀	金	王	金		桂	香

上手方

下手方

駒持 上方手

かんであつて「成香」と「と金」を大いに活用すれば、勝つことは火を見るよりも
 早いと云ふことが出来るのです。

◇居飛車崩し

- △四八銀▲八四歩△七八金▲八五歩
- △八八銀▲八六歩△八六歩▲同飛△
- 八七歩打▲八二飛△五六歩▲一四歩
- △三八金▲一五歩△二八金▲七二銀
- △五七銀▲八三銀△五八王▲七四銀
- △六六歩▲九四歩△六七王▲九五歩
- △七六歩▲八五銀△三六歩▲九六歩
- △同歩▲九八歩打

こゝに示した盤面以下の、指し方にはまだ色々と數多くはありますけれど、大抵下手方に利が有るので、△五五歩と指す手、△七七金と上る手、七七王と指す手八六歩と突き出す手、等がありますけれども、すべて下手方に有利ですから、次に五五歩と指したときのを示すことに致します。

△五五歩▲九六銀△九七歩打▲イ九九歩△九六歩▲八九と△九七銀▲九八歩打△二六歩打▲九九歩ナル△二五歩▲九八と△八六銀▲八八とヒク△同銀▲八七と△八六歩▲九七と△二四歩▲三二銀上△二三歩ナル▲二三銀△三七桂▲九六と△六五歩▲八六と△六六金▲九二飛△五六王▲九七飛△五八銀▲四四桂打△四六王▲一三角△三五歩▲三四銀上△二五桂▲六三銀打

以上でもつて下手方は優勢であります。
イ九七歩と打たれたときに、下手方▲同銀と「と」金を取れば八七銀ナル、八八歩打、七八成銀、同王、九八歩打、同銀、六七金打てひどく悪くなるので「と金」は

捨て、あいて、△九六歩と銀を取るのがよいのです。ロ九七飛車の次に△七六と▲同金、△六七銀と打つ手があります。て下手方は大いに注意しなくてはなりません。此の大駒を抜いて指す將棋においては下手方は上手方の「ハメ手」にさへかゝらぬやうにさへしたならば、これはどうしても勝たれるものですから大いに意をもつてやるべきであります。

◇二枚落崩し方 (美濃圍)

△六二銀▲七六歩△五四歩▲五六歩△七二金▲七八銀△七四歩▲六六歩△七三金▲六七銀△五二金▲七八飛△五三金▲五八金右△八四金▲四六歩△六四金▲四七金△七三桂▲四八王△四二銀▲九六歩△九四歩▲三八王△五三銀右▲二八王△五二王▲三八銀△四四歩▲一六歩△一四歩▲三六歩

○第一圖示

第一圖

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇							科	皇
				王	藤			
	手	科	手	藤		手	手	
手	手	手	手	手	手			手
步		步	步	步	步	步		步
	步		銀		金		步	王
	角	飛				銀	桂	
香	桂				金		桂	香

第二圖

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇							科	皇
					藤	王	手	手
		と	と	銀	手	手		手
		手		手				
步	步			步	步	步	步	步
			銀		金			
		皇				銀	王	
					金		桂	香

△四三王△二六步△七五步▲同步△七五金右▲九七角△七四步打▲七九角イ△八四步▲八八飛△八五金▲八六步△九六金▲八五步△八五步▲八四步打△八六步▲

持駒 上方手 下方手 飛金 角金 桂金 桂歩 歩

第三圖

八	七	六	五	四	三	二	一	
皇							科	皇
		飛			藤			
	手		手	藤	王	手	手	
手					手			手
				科				
步			步	步	步	步		步
	步		手		金			
						銀	王	
香		角		金		桂	香	

持駒 上方手 下方手 飛金 角金 桂金 桂歩 歩

九六香△九五歩▲八三歩ナル△九六歩▲七三と△八七香打▲七八飛△八九香ナル
▲六五歩ロ△七九香ナル▲六四歩△七八香ナル▲六三歩ナル
此の駒組は力將碁であつて、双方ともになかく骨の折れるものであります。

○上手方△九六金と端の歩を取つたとき、香で直ちに取らないところに巧みさがあるのである。大いに應用すべきものである。
○第二圖の變化イ△八四歩を△八五金△八五金▲六五歩△七五金上ル▲七六歩打△六五金▲七七桂△七六金右▲六五桂△六七金▲七四飛△六五桂

圖四第

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲							科	▲
					王	歩	歩	
		と	歩	歩	歩			
		歩	角	歩				
				歩	歩	歩	歩	
				銀	金			
		子		飛		銀	王	
					金		桂	香

桂金金後 しな先 駒持

▲上手方

▲下手方

▲七二飛ナル

と指せば下手方が有利になるのです。

△八九金のときには下手方△六五歩と突かずにて、▲七七桂と上る手もあるが

それは甚だ不利であつて、勝目のない手てありますから注意が第一であります。

○第二圖の變化△七九香ナルを△七五金と上つたときには、此のときは下手方はよつほど注意をしてゐて、大局上の考へも深くなければ決して指し手をやたらにやるべきではありません。やつたら最後で悪手とつゞけてうかば

れないと云ふものです。

△七五金ヨル▲五七角△八七歩ナル▲七五角と指すのがよいのです。

此れて立派に下手方が勝つことが出来るのであります。只の一手でも指しあやまると非常な苦境に落ち込みますから大いに注意するのがよろしいのです。

それから色々とその崩しの型があたまたまありますが、先づ以上でいくぎりをつけることにします。以上の駒組、その指手の方法等をよく覚えると同時に覺えた丈で活用が出来なくては何んの足しにもなりません。大いに強者、弱者を問はず、向ふに廻して練習と研究とが何んと云つても肝腎であることは嗚々するまでもありません。

定跡 將棋必勝寶典

將基定跡虎の卷

(一) 卷の虎跡定棋將

二	二	二	四	六	六	六	六	將 <small>しょう</small> は	
枚 <small>まい</small>	枚 <small>まい</small>	枚 <small>まい</small>		枚 <small>まい</small>	枚 <small>まい</small>	枚 <small>まい</small>	枚 <small>まい</small>	碁 <small>ぎ</small> のし	
			枚 <small>まい</small>					級 <small>きゅう</small> とが	目
落 <small>おち</small>	落 <small>おち</small>	落 <small>おち</small>		落 <small>おち</small>	落 <small>おち</small>	落 <small>おち</small>	落 <small>おち</small>	格 <small>かく</small> が	
(三)	(二)	(一)	落 <small>おち</small>	(四)	(三)	(二)	(一)	位 <small>い</small> が	次
.....	
二六	二四	一九	一五	一二	九	七	五	三	一

詰 角 角 角 角 角

將

棋

(一) 角を主眼とした	五	(六) 大字詰	九五
(二) 大矢數	八六	(七) 大橋家献上式(ノ一)	九一
(三) 金を主眼とした	八七	(八) 同上	九三
(四) 角を主眼とした	八八	(九) 同上	九三
(五) 詰將碁	八九	(十) 同上	九四

落 (六)	八二
落 (五)	七九
落 (四)	七六
落 (三)	七五
落 (二)	七三

角 飛 飛 飛 飛 飛 飛 飛 飛 二 二

車 車 車 車 車 香 香 香 香 枚 枚

落 (一)	七〇
落 (五)	六九
落 (四)	六六
落 (三)	六二
落 (二)	五六
落 (一)	五三
落 (四)	四七
落 (三)	四四
落 (二)	四二
落 (一)	三八
落 (五)	三七
落 (四)	三五

詰將棋十餘手……………	九	十九
(十一)同	上(ノ五)……………	九五
(十二)同	上(ノ六)……………	九六
(十三)同	上(ノ七)……………	九七
(十四)同	上(ノ八)……………	九八
(十五)同	上(ノ九)……………	九九
	(十六)難解詰手……………	一〇一
	(十七)金を主眼とした……………	一〇二
	(十八)難解詰手……………	一〇三
	(十九)駒競ひ……………	一〇四
	(二十)宗看作の詰手……………	一〇五
	……………	一〇六—一〇七

目次終

將棋定跡虎の卷

東都將棋俱樂部編

はしがき

將棋を志す人々のために、著者は古今多くの斯道書をあさり、定跡の研鑽を兼ね、初心者のため、手を引いて道を教ふるが如くと殊に力めました。

尙將棋入門者によき對手のない場合を考へあはせて、出來得る限りの便を計りました。述べる所すべて系統を立て、秩序順次を踏みよく按排しましたから、初心者と又一寸素養ある人に拘らず、將棋を愛し、將棋を研究し將棋に勝利を得んと力むる者には他にその類書多い中で本書は特に、その親切とその教示は本書の大きい誇る所であります。

初學者はよく本書を熟讀し、翫味し、研究するならば必ず斯道に進歩し、その速みやかなる上達さには自ら驚く日も近からんと思ふ次第であります。

本書は一寸素養ある人にはその定跡をしつかり味ははせ、教へ、初心者には出来る限りの便益を虚つて、字句にて述べるのみでなく圖解説明を加へ、簡易に一目見ればすぐその場で應用の利くやうと努力を加へたものがあります。よろしく將棋を愛し研究し、勝利を得んと望む士は本書をよく手本として、獨習し、復習し、諳記して大いに應用し、臨機に活用すべく心がけねばなりません。

本書を編むにあつて先づ以上述べたやうに初步より段々と奥堂へと進み入るやうに、やさしく會得しやすくと心がけてありますからどんな人でも、讀めばすぐその場で利する所が多いと云ふものです。これによつて、斯道に一步でも上達せられて技も上り研究の一助ともなればと希ふ次第なのです。

編者認す

將棋の階級と格位

盤「面」の符合圖

一ノ一	二ノ一	三ノ一	四ノ一	五ノ一	六ノ一	七ノ一	八ノ一	九ノ一
一ノ二	二ノ二	三ノ二	四ノ二	五ノ二	六ノ二	七ノ二	八ノ二	九ノ二
一ノ三	二ノ三	三ノ三	四ノ三	五ノ三	六ノ三	七ノ三	八ノ三	九ノ三
一ノ四	二ノ四	三ノ四	四ノ四	五ノ四	六ノ四	七ノ四	八ノ四	九ノ四
一ノ五	二ノ五	三ノ五	四ノ五	五ノ五	六ノ五	七ノ五	八ノ五	九ノ五
一ノ六	二ノ六	三ノ六	四ノ六	五ノ六	六ノ六	七ノ六	八ノ六	九ノ六
一ノ七	二ノ七	三ノ七	四ノ七	五ノ七	六ノ七	七ノ七	八ノ七	九ノ七
一ノ八	二ノ八	三ノ八	四ノ八	五ノ八	六ノ八	七ノ八	八ノ八	九ノ八
一ノ九	二ノ九	三ノ九	四ノ九	五ノ九	六ノ九	七ノ九	八ノ九	九ノ九

此の盤面の符號は篇と暗誦しなくては駄目です。これがなんといつても基礎です

突きは歩兵で敵陣を攻める目的でやつたものであつて妙てあります。

次に第一圖以下の指方を書きます。

△五二金▲七四歩△七二歩打▲八二成香△六三銀▲七三歩ナル△七三歩▲八三成香
△五四銀▲八二龍△四四歩▲七三成香△四三王▲六二成香△四二金▲七四歩打△三
四歩▲七三歩ナル

これでわかれとなるときには下手方の勢がさかんであります。

此のとき龍のたすけて成香と成歩の二枚を大いに活用すれば勝ちにうたがひなし
です。

下手方の七三歩と成捨て成香の活動がうまければそののちの七筋に成歩を作る計
りごとをやるのも巧者であります。

その次の指し方

△五四角打▲七四歩△七二歩打▲二成香△五二金▲五五歩△二七角ナル▲三六金

此のわかれとなるときは二八歩と打つて敵の馬を取つてしまへば下手方の勢が
出る。

六枚落(二)

下手方はめ手崩しの戦策

△四二王▲七六歩△七二金▲六六角△
八二銀▲九六歩△六四歩▲五六歩△七
四歩▲九五歩△八四歩▲八四角△八三
金▲六二角ナル△七三金

此の局面では上手方は相手の成角を
取ることが目的で、はめ手にかけたの
であるけれど下手方は以下の手段でもつて敵をやつつけるか、あるひは成角を脱出

第二圖(七二金までの局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
					零	零		
			馬		王			
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

▲持駒 歩

するのであります。次の局面は以下の指し方を示します。
△九四歩▲九四歩△六一馬

第三圖(六一馬の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
			馬		王	銀		
					王			
					王			
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

▲駒持歩

です。

この局面のとき八三歩打と八三金との二つの方法があります。

下手方の九四歩にたいして、上手方

五一金とやるならば同馬、同王一三歩

ナルて下手方が優勢となるのです。

第三圖以下の指し方を示します。

△八三歩打▲九四香△五一金▲同馬△

五一王▲九二香ナル△七一銀▲九八飛

此のわかれとなるときは下手が優勢

下手方が九四歩と突き捨て、六一馬と指して敵の一步を八三に打たせて、馬を切り、飛車を敵地に侵入する策を計つたのは妙であります。

次の指し方

△八三金▲七二馬

このつぎに下手方が九三歩打の計り

があればよろしい。

六枚落(三)

△六二金▲七六歩△二二銀▲六六角△

八二銀▲九六歩△六四歩▲五六歩△七

四歩▲九五歩△七三金▲九四歩△九四

歩▲九四香△八四金▲九八飛△九五歩打▲八四角△八四歩▲九二香ナル△七三銀▲

第四圖

九	八	七	六	五	四	三	二	一
					王	王		
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

▲駒持歩

九五飛△五七角▲六八銀△二四ナル▲二五金打
次にその變化を示す。

イ△九五歩△七三銀と打つた場合に、▲九三香ナル△九五歩打▲八四角△八四歩
八三王△六二銀▲九五飛△四二王▲九
二飛ナル△五二金▲四八金
てこの次ぎ末に王にてよるのであり
ます。

次に第四圖の變化△としてロ△五七角をよして△四二王と指したとき▲九三飛ナル△六二銀▲四八金となつて此の末に次第に王がよるのです。
一寸参考までに示した盤面です

角 變跡

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
△			銀	王	銀				
	リナ香		銀	王	銀				
	香		銀						
	香		銀						
		歩		歩					
		歩		歩					
		歩		歩					
		桂	銀	王	銀	桂	香		

▲持駒 金歩歩

第四圖の一

第四圖一、二を参考として充分に研究されるとよい。から行けば下手方は完全に大丈夫と云ふ所です。
第四圖一の變へた指し方として

毎 變跡

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
リナ香				王		銀			
龍				王		銀			
	香			銀					
	香			銀					
		歩		歩					
		歩		歩					
		桂	銀	王	銀	桂	香		

▲持駒 金歩歩

第四圖の一

第五圖

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
リナ飛				王		銀			
	リナ香			王		銀			
	香			銀					
	香			銀					
		銀		歩					
		歩		歩					
		歩		歩					
		桂	銀	王	金	銀	桂	香	

▲持駒 金歩歩

△同歩を同銀と指した場合、▲八三王△八五飛▲九五飛△七六銀▲九二飛△五二金▲七三王
かくの如くおし進めて行くのです。
その圖を示します。

八銀と打つても七八王と退かれれば「龍王」をしりぞかねばならない。此の様な先手、後手をよく覚えるのがよろしい、また九七飛ナルは早い。

▲九七香ナル△七七王▲八七歩打△六八金▲八八歩ナル△六七王▲八七香△五五歩▲七八と△五八金▲七七香ナル△五六王▲九七飛ナル△四六歩▲六七銀打△同金▲同香ナル△四八銀ヒク▲七七龍△五七銀打▲同香ナル
△五七銀▲五八銀打て下手方の勝はうたがひなしとなりませす。

○▲同香を上手方が若し△同金と取つた場合には

▲同飛九七歩打、八七歩打、九六歩、八八歩ナル、同王八七銀打、七九王、七八金打て、下手方の勝となりませす。

次に盤面以下の指し方を示しませう。

七手方八六歩を△同歩ととれば下手はすぐに

△九六歩△同歩▲同香△八七銀▲九八歩△九六銀▲九六飛△八八王▲九七銀△七九

王▲八六銀△八七香▲七九飛てよいのです。

四枚落

下手はめ手崩し

△六二銀▲二六歩△三二金▲二五歩△
二二銀▲二四歩△同歩▲同飛△二三金
▲二八飛△二四歩打▲七六歩△三四歩
▲二二角ナル△同銀▲二四飛△三三角

打

此のわかれとなる場合には上手方の計略にはまつた形てあります。

以下に下手二八飛、三四飛とやる二

▽封鎖 手合

九	八	七	六	五	四	三	二	一
	科		王				科	
			王				王	
科	科	科	科	科	科	科	科	科
							飛	科
		歩						
歩	歩		歩	歩	歩	歩		歩
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

第一圖(三三角打の局面)

歩歩銀 駒持▲

種の指し方があります。

第一圖以下の指し方を示すと

▲二八飛△九九角ナル▲八八銀打

此の場合に二三香打と八八成角との

二つの指し方があります。

第二圖以下の指し方を示しませう。

△二三香打▲九九銀△二八香ナル▲

同銀△三二金▲三八金△三三桂▲二四

歩打

此のわかれとなるときは下手の優勢となります。

此の末下手方には一二角打、二七香等の指し手があります。二筋にと金をつくり

徐ろに攻めよせれば、敵は飛車一枚で防ぐのに困難となつて來ます。しかし四五桂

▽斜鱗 景

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	金	王	金	銀	飛	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	銀							
歩	桂							
		歩						

▲駒持 歩歩

第二圖(八八銀打の局面)

がはねる時には六七銀と受けければよいのです。

次の指し方は

△八八馬▲同銀△二三銀打▲一一角打

第三圖(一一角打の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	金	王	金	銀	飛	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	銀							
歩	桂							
		歩						

▲駒持 歩歩

此の場合に於て一二金と三二金との二つの指し方があります。

上手方二三銀打の處三三銀打である

ならば二四歩打。

同銀、同飛、二三香打、三四飛、三

三歩打、三六飛引によい。

第三圖以下の指し方を示します。

△一二金▲五五角ナル△二二香打▲五
六馬△七二金▲二四歩△同銀▲三四馬

△三三銀▲一二馬△二八香ナル▲同銀△四二銀▲二三歩△三三桂▲二二歩ナル△三
 一歩打▲三四馬

これでわかれとなる時は下手方が勢を得ることになります。

此の末は下手方が成歩をうまく活用さへすれば勝は先づうたがひない所です。

こゝで評すならば下手飛車をギセイにしてしひ、馬を敵陣に飛び込ませて成を作
 作る策略は仲々妙である。

次の指し方を示せば

△三二金▲二二歩打△二四香▲二一歩ナル△二八香ナル▲同銀△二四銀▲二七香打
 △三五銀▲三一と△四四金▲三三角ナル△五二王▲三二と△五一金▲二二香ナル

これでわかれの際は下手方が優勢であります。

此の末成香と成歩を大いに活用して、攻めたてれば勝利先づうたがひなしてす。

下手方が二二歩打以下飛車をギセイに供しておいて、敵を歩切れとして、金を運

用し、三三角成の略計はよいものである。

三枚落(一)

上手六四銀越し、下手四四歩換り

△六二銀▲七六歩△五四歩▲四六歩△
 五二金右▲四五歩△五三金▲三六歩△
 六四金▲四八飛△五三銀▲三八銀△四
 二銀ナル▲三七銀△六五金▲四六銀△
 六二王▲五八金右△三二金▲七八金△
 八四歩▲六九王△八五歩▲六八銀△六
 四銀▲四四歩△四四歩▲四四角△五三
 銀ヒク△二六角

△持駒 香

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	歩	金	銀	歩	角	歩	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩

第一圖(二六角引の局面)

▲持駒 歩

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
			王		馬	馬		
			科		科	科	科	科
			馬		歩			
			馬					
			歩		銀	歩		
			歩	歩	歩		歩	歩
			角	金	銀	金	飛	
香	桂		王				桂	香

シナ 駒持▲

第三圖(四四歩突き局面)

此の圖面の場合には下手方の四四歩を同歩と取らないで

△八六歩▲同歩△七六金▲九八香△七

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
			王		馬	馬		
			科		科	科	科	科
				銀	歩			
			馬					
			馬			歩		
			歩	歩		歩	歩	歩
			角	金	銀	金	飛	
香	桂		王				桂	香

歩歩 駒持▲

五銀▲四五銀△八六銀▲五四銀

第四圖(五四銀の局面圖)

此の場合に於て四四歩、八七銀ナルとやる二方法があります。

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
			王		馬	馬		
			科		科	科	科	科
				銀				
			馬					
			馬			歩		
			歩	歩		歩	歩	歩
			角	金	銀	金	飛	
香	桂		王				桂	香

歩歩歩銀 駒持△

下手方が九八香ヒクとやる習ひある定法があります。心得ておくべきです。
 △四四歩▲四四角△五三歩打▲四三歩打△四三金▲五三角ナル△五三銀▲四三飛ナル△五四銀▲五三金打△七二王▲五四龍△七四銀打▲八四歩打△八七歩打▲六五銀打△八七銀ナル▲四三歩ナル△八八成銀▲八八金

第五圖以下の指し方を示します。

- △四三銀▲同銀ナル△四七歩打▲同飛
- △六五角打▲五三銀打△七二王▲三二
- 成銀△五五角打▲五二銀打△七二王▲
- 八四歩打△八三歩打▲六三銀ナラズ引
- △八二王▲三二と一

二枚落(二)

前の局面の變化上手方七六金歩取り

- △六二銀▲七六歩△五四歩▲四六歩△
- 五二金右▲四五歩△五三金▲三六歩△
- 六四金▲四八飛△五三銀▲三八銀△三
- 二金▲三七銀△四二銀トル▲四六銀△
- 六五金▲五八金右△六二玉▲七八金△
- 八四歩▲六九王△八五歩▲六八銀△七
- 八金▲九八香△六四銀▲四四歩△五五
- 歩▲五五銀△五五銀▲五五角

此の場合に六四銀と打つのと、五四

第六圖(五五角の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂						桂	香
歩	歩	金	銀	金	飛		歩	歩
				角		歩		
	歩				歩			
			王		歩	歩		

▲持駒 銀歩

銀打とやる二つの方法があります。

次に第六圖以下の局面の指し方を記しませう。

- △六四銀打▲六四角△六四歩▲五四銀打△四四歩▲六三銀打△五一王▲四六飛△七
- 五金▲四三歩打△同銀▲五六飛△五四銀▲同飛△四一王▲四三銀打△四三金▲五二
- 飛ナル△三一王▲四三龍△四一銀打▲五二銀不成

此の場合でわかれとなる時は下手方の勝です。

下手方が角を六四へ切り、次に五四銀と打つて攻めを探り、順次四筋に飛車を上げ、四三歩と打敵に同銀と取らせておいて、五筋に飛車をかへれば手段は仲々巧みです。

次の指し方を示せば

- △五四銀打▲三七角

▽将喰 糸

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
			王		護	零		
		糸	糸		護	糸	糸	糸
					歩			
	糸							
		零				歩	角	歩
歩	歩		歩	歩	金	飛		歩
		金	銀	金				
香	桂		王				桂	香

第七圖(三七角引の局面)

▲持駒 銀歩

第七圖以下の指し方を示せば
 ▲五五歩打 ▲二六角 △七二王 ▲四一銀
 打 ▲三一金 ▲五二銀ナル
 これてわかれとなる際は下手方が大いに勢力があります。
 下手方が四四歩を大いに利用して角の活用に妙を出します。
 ▲四四歩 ▲八二銀打
 此の時は下手方がよろしい。

二枚落 (三)

△六二銀 ▲七六歩 △五四歩 ▲五六歩 △五二金右 ▲四五歩 △五三金 ▲三六歩 △六四金

▽将喰 糸

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
				王		零		
		糸	糸	護	糸	糸	糸	糸
				歩	歩			
					歩	銀		
			歩	歩				
	歩	角	金	銀	金	飛		歩
			王					
	桂						桂	香

第八圖(三五歩突き局面)

▲持駒 駒シナ

ひ、桂の頭へ銀を打つのも一趣向てよろしい。

▲四八飛 △五三銀 ▲三八銀 △三二金 ▲三七銀 △四二銀上ル ▲四六銀 △六五金 ▲五八
 金右 △五二王 ▲七八金 △六四銀 ▲六九王 △五三銀上ル ▲六八銀 △八四歩 ▲三五歩
 此の場合に於て、八五歩、七四歩又は七六金とやる三種の指し方があります。
 次に第八圖以下の指し方を記します
 △八五歩 ▲七七金 △五五銀 ▲五五銀 △五五歩 ▲八二銀打
 これて岐れとなる時は下手方が優勢です。下手方が七七金と指して、敵にどうしても銀を交換さすやうにしました。

なほ次の指し方を示せば
△七四歩▲三四歩△五五歩▲六六歩△七六金▲六五歩

第九圖(六五歩突きの局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	将					王	歩	壘
				王	歩	歩	歩	
			歩	歩	歩			
香	桂		王	銀	金	飛	桂	香

シナ 駒持▲

△七三銀引▲五五銀△八五歩▲九八香△三四歩▲七二歩打△六二銀右▲四六銀△三

此のとき六五銀、七三銀引との二つの方法があります。
なほ第九圖局面以下の指し方を示せば
△六五銀▲三三歩ナル△三三金▲三四歩打△三四金▲五五角
これで岐れとなるときは下手方がよろしい。
その次ぎには

三金▲七一步成△七一銀▲五五角

第十圖(五五角の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	将	王					将	壘
				王	歩	歩	歩	
			歩	角	歩			
香	桂		王	銀	金	飛	桂	香

シナ(駒持)▲

この時は下手方がよろしい。
尚次ぎの指し方を記せば

此のときに於て八六歩、六四歩とやる二つの方法があります。
下手方が五五角と出る含みをもつて七二歩と打つ味があるてはありませんか。
その次ぎの指し方を記します。
△八六歩▲同歩△八二歩打▲七二歩打
△五四歩打▲三三角ナル△同桂▲七一歩ナル

△六四歩▲同歩△七三桂▲三五歩打

第十一圖(三五歩打ちの局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲		▲					▲	▲
		▲		王				
▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		▲	歩			▲	▲	
		▲		角	歩	歩		
		▲	▲		銀			
歩	歩		金	歩	飛		歩	歩
			金	銀	金	飛		
香	桂		王				桂	香

シナ 駒持▲

△五四銀▲三四歩△五五銀▲同銀△三四金▲五四銀打
 これて岐れとなる際も下手方の優勢です。

此のときに於て五四歩、又は五四銀三五歩と指す三つの方法があります。次の即ち第十一圖以下の指し方を示せば

△五四歩打▲三三角ナル△同桂▲六三金打△四二王▲三四歩

これてわかれとなる場合に於ては下手方の勢ひさかんです。

なほ次の指し方は

なほ以下の指し方は

△三五歩▲三五銀△三四歩打▲三三角ナル△同桂▲六三金打△四二王▲四四歩突
 これて岐れとなつても下手方の方がつと優勢です。

次にひるがへつて、第八圖以下の指し方の變化、上手五五歩止めからの指し方を示します。

△七六金▲三四歩△五五歩▲三三歩ナル△三三金▲三八飛

此のときに五四銀又は二四歩打との二種の指し方があります。

次に第十二圖局面以下の指し方

△五四銀▲三四歩打△三二金▲六六歩

▽棋譜 手手

九	八	七	六	五	四	三	二	一
▲	▲						▲	▲
				王				
▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	▲							
				▲	歩			
		▲			銀			
歩	歩		歩	歩	金		歩	歩
		金	銀	金		飛		
香	桂		王				桂	香

歩 駒持

第十二圖(三八飛廻りの局面)

△八五歩▲五五歩△四五銀▲三三歩ナル△三三金▲五四歩

第十三圖(五四歩の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	将						将	皇
				王				
				歩				
			歩	歩				
			銀					
						飛		
					金			
			歩	銀	王			
			角	金				
			桂					
香								香

▲駒持 歩

此の場合に於て五五歩、又は八六歩突きの二種の方法があります。
次に第十三圖以下の指し方を示せば
△五五歩打▲同銀△八六歩▲六四銀△六四歩▲二三歩

これにて岐れとなる場合は大いに下手方の勢ひがあります。

なほ次ぎの指し方を記しませう。
△八六歩▲一一角ナル△八七歩ナル▲

八七金△八七金▲二一馬

これにてわかれとなるも下手方がよろしい。

次に第十二圖(第十二圖の局面を見て下さい)の指し方の次ぎを記します。

第十四圖(三四歩打の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	将						将	皇
				王				
				歩				
			歩	銀				
			飛					
						桂		
			歩	金				
			銀					
			金					
			王					
香								香

▲駒持 シナ

此の時に八六歩突き、又は三三金引きとの二つの指し方があります。

下手方が三六飛と中段にそなへて、

先手を採つてから次に三七へ桂を進んだ所は、實に手がたい策略であります

第十四圖以下の指し方

△八六歩▲八六歩△八七歩打▲七九角
△三三金▲七七桂△七五金▲八七金△
五六歩▲五六歩△六二王▲七六歩打△

七四金▲五七銀△五五歩打▲五五歩△五五銀▲六五桂△金五金▲五六歩打

これにて岐れとなる時は下手方が優勢です。下手方が角頭から攻めて来たときに、

一旦七九へ角を退りぞかして、桂を七七へ進め、以下指し手のやうに攻めて入つたのはもつとも巧みな手法であります。
なほ以下の指し方は

第十五圖(九八香の局面)

一	香								香
二									
三	香								
四									
五									
六									
七	香								
八									
九	香								香

△持駒 ナシ

△三二金▲九八香

此の時に七五金、八六歩突きとの二一の指し方があります。

第十五圖以下の指し方

△七五金▲四六銀

これで岐れとなつても下手方が指方がよいのです。この末に二五桂がとび又は五五銀などと指す方法があるからどうしても下手方の勝ちにうたがひなし

してす。

なほ以下の指し方を記せば

△八六歩▲八六歩△八五歩打▲七七銀△七五金▲八五歩△六二王▲八四歩

なほこれにて岐れとなるときでも下手方がよろしい。此の末に上手方が七二王と寄つた所で下手方は二五桂ととんでその必勝に非を打つことは出来ないのです。

二枚落(四)

上手方五二王の變化、六六歩止め

△六二銀▲七六歩△五四歩▲四六歩△五二金右▲四五歩△五三金▲三六歩△六四金

▲四八飛△五三銀▲三八銀△三二金▲三七銀△五二王▲四六銀△六五金▲五八金右

△四二銀上ル▲七八金

第十六圖(七八金の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科					零	科	壘
				王	科	科	科	科
				科				
					科			
			零		步			
		步			銀	步		
			步	步			步	步
	步	角	金	金	飛			
香	桂	銀	王				桂	香

▲駒持シナ

此の場合で岐れとなるときは下手が優勢です。
一寸茲で評して見ると下手方の三八飛廻り以下で金銀の交換をして六五歩の突き出しは仲々巧妙なる指し方であります。

此のとき八四歩、又は七六金と打つ二つの指し方があります。
なほ第十六圖以下の指し手を紹介しませう。
△八四歩▲六九王△八五歩▲六八銀△七六金▲九八香△六四歩▲三五歩△六五歩▲五六歩△六三王▲三八飛△六六歩▲同歩△七四歩▲六七銀△六七金▲同金右△七三桂▲六五歩

なほ、以下の指し方を記せば
△七六金▲三五歩△六四歩▲三四歩△六五歩▲三三歩ナル△三三銀▲三四歩打△二二銀▲三五銀

これでわかれとなる時は下手方の指し方はよろしい。

二枚落 (五)

上手方の五五歩早留め

△六二銀▲七六歩△五四歩▲四六歩△五二金右▲四五歩△五三金▲三六歩△六四金▲四八飛△五三銀▲三八銀△四二銀上ル▲三七銀△五五歩▲四六銀△五四銀▲五八金右△五三銀▲六八銀△四二金▲七七銀

此の時六五銀又は六五金と指す二つの方法があります。

△六五銀▲六六銀△同銀▲同角△五四銀▲八八角△六五銀打▲八二銀打



△三三三桂 ▲六六歩△五五歩▲六七銀△七四角打▲二八飛

△六四銀▲七八王△五三金▲一二歩打△七四歩▲五八金右△九四歩▲九六歩△七五歩▲同歩△同銀▲四五歩△六四銀▲四四歩

第一圖(四四歩の局面)

此の場合に四四同角と同銀との二つの指方もあります。が上圖の如く以上上手方から四三銀と早く上る時には、下手も四七銀と早く繰り上るのです。が端歩を先きに替へる時には上手方は五五歩と突き止める順になりますから面白くありません。次に第一圖以下の指方を示します。その一、上手方

△四四角▲同角△四四銀▲一歩ナル

こゝに於て岐れとなる時は下手方がよろしい。

第十七圖以下の指し方を記せば

△六五金▲六六銀△七六金▲七八金△六六金▲同角△六四銀▲八八角△七四歩▲六六金打

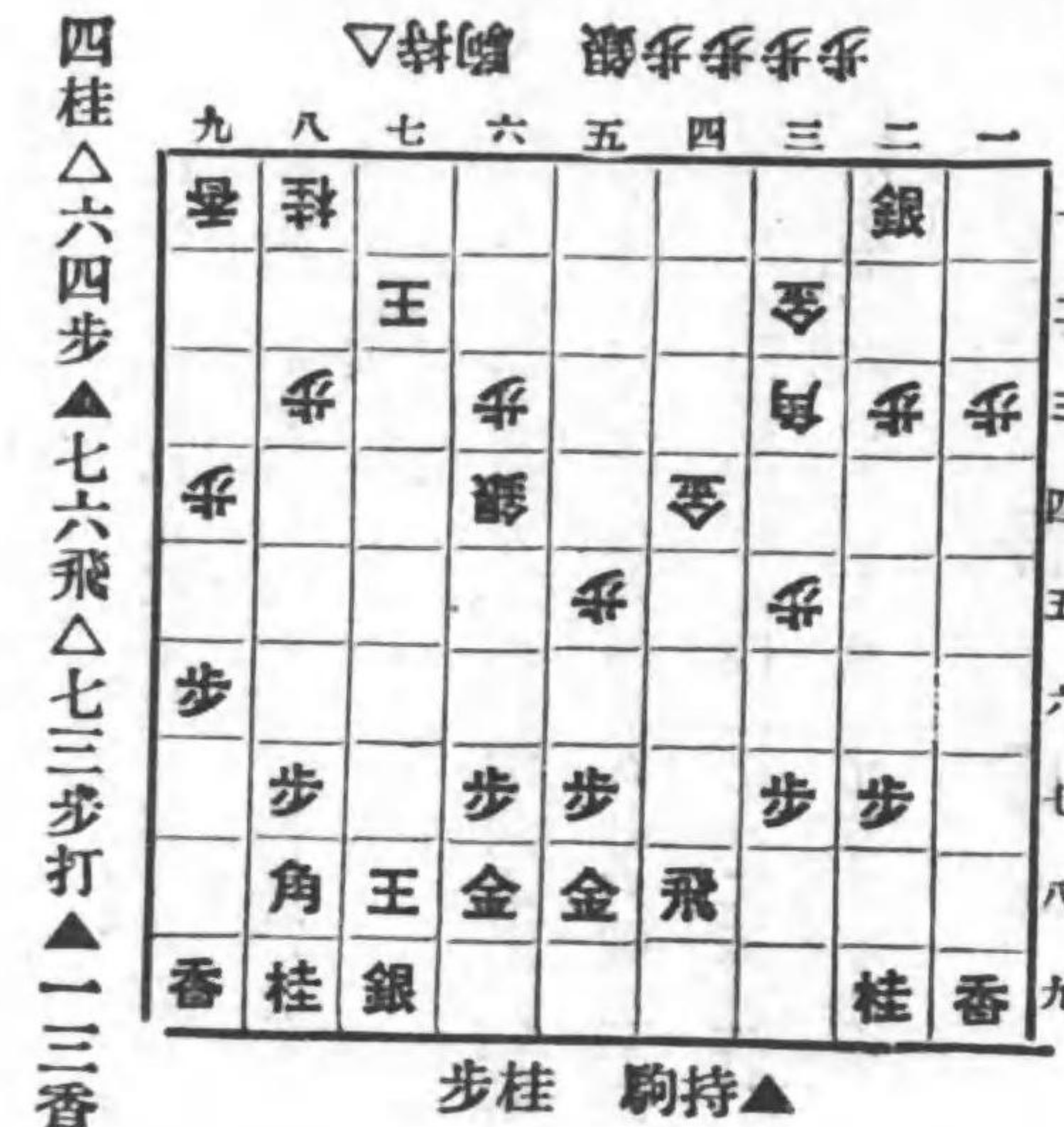
飛 香 落 (一)

上手居角七五歩突四四角替

△三四歩▲七六歩△四四歩▲一六歩△四二銀▲一五歩△四三銀▲四八銀△五四歩▲四六歩△六二銀▲七四銀△五三銀▲一八飛△六二王▲一四歩△同歩▲同飛△一三歩打▲一八飛△七二王▲五六銀△三二金▲四八飛△三五歩▲六八金△六二金▲六九王



第十七圖(七七銀の局面)



四桂△六四歩▲七六飛△七三歩打▲一二香ナル△二一金▲二三成香△五一角▲五三

△四四銀▲一歩ナル△一角▲四五銀△五五歩▲一二歩打△二二角▲四四銀△四四金▲一歩ナル△一角▲一二銀打△三三角▲二銀ナラズ

第三圖(二銀不成の局面)

此の場合に二二金と四三金と四二金との三種の指方もあります。が、下方は一歩となつて同角で取らせませうとして四五銀で攻勢に出れば、敵が五歩ととめればその時は角で一歩と打ちます。右三圖以下の指方を示しますと、その一、上手方

△二二金▲五六桂打△四七歩打▲四七飛△四六歩打▲四六飛△四五歩打▲六



第二圖(飛の局面)

▲二一と△三六歩▲三六歩△三八歩打▲一八飛△二二金▲四三二金▲四六歩△二二金▲一三角ナル△三九歩ナル▲四六歩△二二金▲一二と△三二金歩打△三九歩ナル▲四五歩△四五銀▲六五桂打

かうなる時は下手が優勢となります。以下の指方を示します。

下手方は敵の三三桂に對して、六六歩と突くのは六七へ退却して自分の方を固めることとなつて確實であります。次に二圖以下の指方を示します。その一、上手方

△四六歩打▲四八歩打△三六歩▲三六歩△三八歩打▲一八飛△二二金▲三一角打△三二金▲一三角ナル△三九歩ナル▲四六歩△二二金▲一二と△三二金

銀打

此のやうに岐れとなる場合は下手が優勢となります。そして、下手方五六桂と打つて敵が四筋を防いだ時に、六四桂と飛んで、飛車を七筋に轉じます。方法は面白い。右以下の指方を示しますと

△四三金▲三二銀ナル△二四角▲五六桂打△四七歩▲四七飛△四六歩打▲四六飛△四五歩打▲六四桂△六四歩▲七六飛△七三歩打▲九七角△五四金ヨル▲四四歩△四四金上ル▲三三銀打△四二金▲二五桂打

此の場合岐れとなりましても下手の方が優勢であります。

飛 香 落 (二)

上手方五二金左受け

△三四歩▲七六歩△四四歩▲一六歩△五四歩▲一五歩△四二銀▲四八銀△四三銀▲

▽将棋 子金

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科		零	零		科		
		王						
香	香	香	香	香	香	香	香	香
		歩		銀	歩			
歩	歩		歩	歩		歩	歩	歩
	角		金		飛			
香	桂	銀		王	金		桂	香

第四圖(六八金の局面)

四六歩△六二銀▲四七銀△五三銀▲一八飛△六二王▲一四歩△一四歩▲一四飛△一三歩打▲一八飛△七二王▲五六銀△三三角▲四八飛△三五歩▲六八金

右圖以下の指方を示しますと

△五二金左▲六九王△六四銀▲七八王
 △五二金▲五八金右△六二金▲二六歩
 △九四歩▲九六歩△七四歩▲一三香ナ
 ル△一三桂▲一四歩△二四角▲一三歩
 ナル△一三角▲一八飛△一二歩打▲二
 五桂打

合せた方がよろしい。以下の指方を示しますと前の變化四二金と受けまして

右のやうに上手方が五二金左と早く上るやうな場合はまづ下手一二歩は見

飛 香 落 (三)

上手五二王

△四二金▲六九王△六四銀▲五八金右△九四歩▲九六歩△五五歩▲五五銀△五五銀
 ▲五五角△三六歩▲三六歩△四五歩▲三三角ナル△三三桂▲一三香ナル△四六歩▲
 一三成香△四五桂▲一八飛△七四角打▲一二飛ナル△三二歩打▲四四歩打▲四七歩
 ナル▲四三歩ナル△五八と▲五八金△二九角ナル▲四二と△四六桂打▲二一龍
 此の場合岐れとなる時は下手の方が優勢となりまして、此末は寄せ手となります

第五圖(一二歩打の局面圖)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩

シナ 駒持▲

上圖第五圖以下の指方第一を示しま
 すと(上手方)

△四二銀ナル▲三六歩△六四銀▲五六
 銀△六三銀上ル▲四八飛△五二王▲五
 八金右△七四歩▲七八金△八四歩▲六
 九王△八五歩▲六八銀△四九歩▲九六
 歩

此の次に上手方は四五歩を突出すこ
 とは尤も有利となります。が七五と突

いたならば、同歩、同銀の場合と同じく矢張り四五歩つきとすれば下手の方が指し
 よくなります。右以下の指方を示します。

△六二王▲三六歩△二二銀▲五六銀△七四歩▲五八飛△五一角▲六五銀△七三角▲

七五歩

第六圖(七五歩突の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科			王		驍	科	歩
						驍	驍	
			歩	銀				
						歩	歩	
	歩	歩		歩	歩			
		角				飛	歩	
香	桂	銀	金	王	金		桂	香

シナ 持駒▲

七三桂▲八三成銀
 矢張り此の場合も下手が優勢であります。即ち下手方が三銀とナラズに指して以

右六圖以下の指方を示しますと
 △四五歩▲一歩ナル△四六角▲二一
 と△三三銀▲四六飛△四六歩▲五八金
 左
 此の岐れとなる時は下手方が有利です。即ち右以下の指方を示します。
 △七五歩▲七四銀(イ)△六四角▲八三
 銀ナラズ△三三金上ル▲七四銀ナル△
 八二角▲六八金△四五歩▲七三歩打△

つて七四へ成り戻つて活動することはいゝ手段であります。即ち變化(イ)六四角の
 處で上手方
 △八二角引▲八三銀ナラズ△五五角▲七二銀アラズ
 となつても下手方は指しいゝのです

飛 香 落 (四)

△三四歩▲七六歩△四四歩▲一六歩△
 三二金▲一五歩△二四歩▲二六歩
 右七圖以下の指し方は次の如くいた
 します。即ち
 △二三金▲三八銀△三二銀▲二七銀△
 四三銀▲三六銀

第七圖(二六歩の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科	驍	王			驍	科	壘
	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
		角						
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香

シナ 駒持▲

▽将嶺 子々

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科	藤	零	王			科	
							科	香
香	香	香	香	香	藤		香	
					香	香		
							步	
		步				銀	步	
步	步		步	步	步			步
	角		王				飛	
香	桂	銀	金		金		桂	香

第八圖(三六銀の局面)

シナ 駒持▲

理が多うございますから、始めのうちに下手方から仕掛けの手順が多いのですから、大いに工夫して進められることが肝要であります。右以下の指し方は

△三三桂▲六八王

- 右第八圖以下の指し方は次の如くいたします。即ち
- △三三角▲二五歩△二五歩▲一四歩△
 - 一四歩▲二五銀△二四歩打▲一四銀△
 - 一四金▲一四香△一三歩打▲同香成△
 - 同桂▲一三金打△四二角▲一八飛

この組みは上手方の方は受け方が無

第九圖(六八王の局面)

▽将嶺 子々

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科	藤	零	王			科	
							科	香
香	香	香	香	香	藤		香	
					香	香		
							步	
		步				銀	步	
步	步		步	步	步			步
	角		王				飛	
香	桂	銀	金		金		桂	香

シナ 駒持▲

右第九圖以下の指方を示しますと

- △五四歩▲一七桂△三一角▲二五歩△
- 六四歩打▲三八金△二五歩▲二五桂△
- 二四歩打▲一三桂ナル△一三金▲一四
- 歩△二五桂打▲一三歩ナル△三七桂ナ
- ル▲二四飛△三八成桂▲二三と

上手の方は居王ですから寄り筋が多いのです。下手は始めに六八王と一手上つておいたから急になることは出来ません。すべて、王は早く繰ることが大切です。併し、上手方から最初に五四歩と早くつき出す手がありますからその時はいづれの手順にても必ず早く一七桂と上つてささなくてはなりません。右以下の指方を示しますと

▽将囃 手

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	

▲持駒 歩

- △三三金▲三八銀△五二金▲二七銀△
- 二二銀▲二六銀△二三銀▲二五歩△六
- 三金右▲二四歩△二四角▲六八王
- 右十一圖以下の指方を示しますと
- △四二角▲一四歩△一四歩▲二五銀△
- 二四歩打▲一四銀△一四銀▲一四香△
- 一三歩打△一三香ナル△一三桂▲一四
- 歩打△二五桂▲一三歩ナル△五四歩△

右のうちて變化(イ)一三歩となる場合に▲同金の處上手方
 △同角▲同香ナル△同金▲四五歩△四五桂▲四五銀△四五歩▲八八角ナル
 とおろてこゝでもう一度七圖を参照して頂きまして、その第七圖以下の指方を更
 にここで示します。

第十一圖(六八王の局面)

▽将囃 手

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	
香	桂	銀	王	飛	銀	桂	香	

▲持駒 歩

- △二五桂▲二五銀△四五歩▲二二角ナ
- ル△二二金▲三四銀△二四歩打▲一三
- 桂ナル△一三角▲一四歩△三一角▲一
- 二歩ナル(イ)△一三金▲一三香△一三角▲二三金打

下手方は四六歩と突いておきまして
 敵が桂角を防いで味方の銀の活動力
 を手廣くして陣容を整えます。そして
 一七桂を跳ねて以下の攻撃にするのは
 尤も堅實なやり方でありあります。次に右
 第十圖以下の指方を示しますと

第十圖(二五桂の局面)

二三歩打△六四角▲二二歩ナル△三七桂ナル▲一八飛

こゝで岐れとなる場合には、成歩を活用して飛車を敵地へ侵入することが出来る。すれば、下手方はいよゝゝ優勢となります。が又三七桂とナル處をならなかつたならば、三二としてもいゝのです。右以下の指方を示しますと

△三三角▲一四歩△一四歩▲二五銀△二六歩打△二四銀▲二四銀△二四角▲二六飛△二三歩打▲二八飛△五四歩打▲二五銀打△四二角▲一四銀△二四歩▲二五歩打△二五歩▲二四歩打△二四角▲二五銀△四二角▲三四銀△三四金▲二一飛ナル△三一銀打▲一三香ナル

こゝで別れとなる場合には下手方が優勢となります。右のうち下手方が敵の二六歩を打つたのに對して二四歩と打銀とを交換して二六に飛車を出して先手を取り、穩かに二八飛と引いて、以下二筋におさまして、歩を巧みに利用して、銀の活動を以て敵の陣を破るといふ手段は最も巧妙なさし方せう。

飛車落 (-)

△三四歩▲七六歩△四四歩▲四八銀△三二金▲四六歩△四二銀▲四七銀△五四歩▲

第一圖(三七桂の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	王	馬	馬	馬	馬	馬	皇
香	香	香	香	香	香	香	香	香
		歩		銀	歩	歩		
歩	歩		歩	金	飛			
	角		王					
香	桂	銀	金					香

シナ 駒持▲

五六銀△四三銀▲四八飛△三二桂▲三六歩△六二王▲五八金右△七二王▲六八王△六二銀▲三七桂
 上第一圖以下の指方を示しますと
 △九四歩▲九四歩△三一角▲六五銀△五三銀▲五六銀△四二角▲七八王△五一角▲四五歩△六二角▲六八金スグ△五二金▲二六歩

第二圖(二六歩の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	馬	香	香	香	香	香
	香	香	香	香	香	香	香	
					桂			
歩		歩		銀		歩	歩	歩
	歩		歩	歩	飛			
香	桂	王	金	金				香

▲持駒歩

右第二圖以下の指し方を示します。
 △七四歩▲四四歩△四四銀右▲四五歩
 △五三銀▲二五桂△二五桂▲二五歩
 下手方が四筋に位を取つて二五桂と

跳ねて交換して、同二五歩と、穩に指して先手を取つたのは、いゝ指し方です。右以下の指し方を示しますと
 △一二香▲四四歩△四四銀右▲四五桂

第三圖(四五桂の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
香	桂	王	馬	香	香	香	香	香
	香	香	香	香	香	香	香	
					桂			
歩		歩		銀		歩	歩	歩
	歩		歩	歩	飛			
香	桂	王	金	金				香

▲持駒歩

第三圖以下の指し方を示します。

△四五桂▲四五銀△四五銀▲四五飛△四四歩打▲四九飛△七四歩▲四五歩打△五五歩▲三三桂ナル△三三金▲二五桂打△三二金打▲四五歩打△五六歩▲四四歩△五四銀▲四一銀打△四二金左▲五二銀ナル△五二金▲四三歩ナル△四三金▲三三桂ナル
 ここで別れとなりますときは下手方が優勢であります。下手方が敵の五五歩を突いたのに對して三三桂とナル以下の手段は最もいゝ指手であります。尙右以下の指方を示します。

△二四歩▲三三桂ナル△三三銀▲二五歩△二五歩▲二四桂打△二四銀▲四四歩打
 次に第一圖以下の指方を申上げておきます。すべて圖面を参照して頂きます。
 △五二金▲七八銀△九四歩▲九六歩△五三銀▲八六歩△六四銀▲八七銀△五三金▲
 七八王△五五歩▲五五銀△五五銀▲五五角△三五歩▲三五歩△五四金▲三三角△三
 六銀打▲三八銀打△三一角▲四七金△四七銀▲四七銀△六四角▲五六銀△三六金打

▽将壇 子六

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
		王	銀			銀	科	
科	科	科	科	銀	科	科	科	科
				科	科	科		
				歩				
		歩		銀		歩		
歩	歩		歩	歩		桂	歩	歩
	角		金		飛			
香	桂	銀	王		金			香

シナ 駒持▲

第五圖(六九王の局面)

五六銀△四三銀▲四八飛△五二金▲四
 五歩△五三金▲三六歩△六二王▲三七
 桂△七二王▲六八金△六二銀▲六九王

▽将壇 角七

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
		王	銀				科	
科	科	科	科	銀	科	科	科	科
				科	科	科		
				歩				
		歩		銀		歩		
歩	歩	角	歩	歩		桂	歩	歩
			金		飛			
香	桂	銀	王		金			香

シナ 駒持▲

第六圖(七七角打の局面)

第五圖以下の指し方を示します。
 △四五歩▲二二角ナル△二二金▲七七
 角打

▲五五銀打△三七金▲一八飛△五五金▲五五銀
 第四圖以下の指方を左に示します。

△三一角引▲三四歩△三四銀▲四四銀

△四二角▲四四銀△四四銀▲四四角△

五三銀打▲六六角

此の次に下手方は五二金と打つ手も
 ありますし又三四歩と突く手もありま
 すから大いに研究なさいますことを望
 みます。

飛車落(二)

△三四歩▲七六歩△四四歩▲四六歩△三三金▲四八銀△四二銀▲四七銀△五四歩▲

▽将壇 銀七

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科						科	皇
		王				科	科	
	科	科	科		銀	科	科	科
科				銀		歩		
						歩		
歩	歩	歩		歩		科	歩	歩
	銀	角	歩	歩				
		王						飛
香	桂		金					香

歩歩金 駒持▲

第四圖(五五金の局面)

▽将嶺 糸

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
		王	驍				科	
糸	糸	糸		科	驍		糸	糸
			糸	糸	馬	糸		
					桂			
		歩	角	銀		歩		
歩	歩		歩	歩			歩	歩
		王	金		飛			
香	桂	銀			金			香

第九圖(四五桂の局面)

第八圖以下の指方を示しますと
 △四五歩▲二二角ナル△二二金▲六六角打△四四角打▲四五桂

歩 駒持▲

▽将嶺 糸

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
		王	驍	科		科		
糸	糸	糸		馬	糸	糸	糸	糸
			馬	糸	驍	糸		
					桂			
		歩		銀		歩		
歩	歩		歩	歩			歩	歩
		王	金		飛			
香	桂	銀			金			香

第十圖(六四角ナルの局面)

第九圖以下の指方を示しますと
 △六三金▲四四角△四四銀▲五二角打
 △五二金▲四四角△四四銀▲三一角打
 △三二金▲六四角ナル

歩 駒持▲

歩角 駒持△

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
		王	驍				科	
糸	糸	糸	糸	科	驍		糸	糸
				糸		糸		
					銀			
		歩				歩		
歩	歩	桂	歩	歩		桂	歩	歩
			金		飛			
香		銀	王		金			香

第七圖(七七桂の局面)

第六圖以下の指方を示しますと
 △三三角打▲四五桂△七七角ナル▲五三桂ナル△四四角打▲四五銀△七七角ナル▲七七桂

歩角 駒持▲

▽将嶺 糸

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
		王	驍				科	
糸	糸	糸		科	驍		糸	糸
			糸	糸	歩			
					銀		歩	
		歩		銀		歩		
歩	歩		歩	歩		桂	歩	歩
		王	金		飛			
香	桂	銀			金			香

第八圖(七八王の局面)

第七圖以下の指方を示しますと
 △六四角打▲六五桂△五二金▲四四打
 △四四歩▲六五桂△四五歩▲五三桂
 ナル△五三銀▲四五桂△四五銀引▲五三桂ナル△六四歩▲七八王

シナ 駒持▲

第十圖以下の指方を示しますと

△六三金▲四六馬△六四角打▲五四馬△六四金▲三八金△四三步打▲七七桂△六三銀▲五三桂ナル△五三銀▲五三馬△五三金▲四一飛ナル△四三角打▲四四步打△四

第十一圖(五八金ナリの局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘	科						科	壘
		王	藤			香		
	科			香	藤	香		
科		科	科	科	科			
					步			
步		步	角	銀		步		
	步		步	金	飛		步	
		王	金					
香	桂	銀						香

シナ 駒持▲

四金▲四五步切△九四步▲九六步△三
 三角▲六六角△七四步▲五八金ナル
 第十一圖以下の指方を示しますと
 △六三銀▲八六步△七三桂▲七五步△
 七五步▲四四步△四四角▲四四角△四
 四銀▲七四步打△六五桂▲四四飛△四
 四金▲五三角打
 下手方が七五歩と突いてそれを捨て
 七筋歩打の含みを作つて四筋から攻勢

に出たのは最もいゝ方法です。右以下の指方は
△七三桂▲七五歩

第十二圖(七五歩突の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
壘							科	壘
		王	藤			香		
	科			香	藤	香		
科		科	科	科	科			
					步			
步		步	角	銀		步		
	步		步	金	飛		步	
		王	金					
香	桂	銀						香

シナ 駒持▲

下手方の二六角と打つたのは、攻守兩様かねて居りますから強みのあるいゝ手段

右第十二圖以下の指方を示します。

△六五歩▲八八角△七五歩▲四四歩△
 四四角▲四四角△四四銀▲七四步打△
 七五歩▲四四步△四四角▲七四步打△
 六五桂▲四四角△四四銀▲六六歩△四
 七步打▲四七飛△二八角打▲二六角打
 △三五歩▲四九飛△三六歩▲四四角△
 四八歩打▲四八飛△三七歩ナル▲五三
 角ナル△四八と▲六三銀打

てあります。

飛車落 (三)

第十三圖(七七桂の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	爵					科	皇
				王		帝		
				帝				
				帝				
				帝				
				帝				
				帝				
				帝				
				帝				
香	銀		王	金		桂	香	

角駒持◀

- △三四歩▲七六歩△四四歩▲四六歩△
- 三二金▲四八銀△六二銀▲四七銀△五
- 二金▲五六銀△五四歩▲四八飛△五三
- 銀▲四五歩△四三金右▲四四歩△四四
- 角▲四四角△四四銀▲四五歩打△五三
- 銀▲六八金△五二王▲七七桂
- 右第十三圖以下の指し方を示しますと
- △三三桂▲六五桂△六四銀▲四四歩△
- 四二金引▲二一角打

右十四圖以下の指し方を示します。

- △五五歩▲五五銀△五五銀▲三二角ナル
- △三二金▲五四金打△四二歩打▲五三桂

第十四圖(二一角打の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	爵					角	皇
				王	帝	帝		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
香	銀		王	金		桂	香	

シナ駒持▲

第十五圖(四五飛の局面)

九	八	七	六	五	四	三	二	一
皇	科	爵					角	皇
				王	帝	帝		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
				帝		科		
香	銀		王	金		桂	香	

歩桂駒持▲

- ナル△六一王▲五五金△四五歩打▲四五
- 銀△四五桂▲四五飛

右十五圖以下の指し方を示しますと

上手方は駒切れてすから指悪いのですすから次に下手は馬の活動策を講じさへすれば自然有利となりませす。
右以下の指し方を示しますと

△三五角打▲四八飛▲六四銀▲九六角打△三三桂▲六五桂△六四銀▲四四歩△四二金引▲四三角打△四三金左▲同歩ナル△同金▲六三金打

飛車落 (四)

△三四歩▲七六歩△四四歩▲四六歩△三二金▲四八銀△六二銀▲四七銀△五四歩▲五六銀△五二金▲四八飛△五三銀▲四五歩△四三金右▲四四歩△四四銀▲四五歩打△三三銀▲三六歩△六二銀▲六八金△五三銀▲四七銀引△六四銀▲四六銀△五二王▲六九王△七四歩▲五八金左△八四歩▲七八王△八五歩▲三七桂

第十八圖(三七桂の局面)

棋盤図 (18th Diagram) showing pieces like King, Silver, Knight, and Pawn on a 9x9 grid. Labels include 'シナ 駒持▲' and '香'.

右十八圖以下の指し方を示しますと
△七五歩▲二五桂△七六歩▲三五歩△八六歩▲八六歩△八七歩打▲六六角△六五

銀▲三三桂ナル△三三金スグ▲七五角

第十九圖(七五角の局面)

棋盤図 (19th Diagram) showing pieces like King, Silver, Knight, and Pawn on a 9x9 grid. Labels include '歩銀 駒持▲' and '香'.

右十九圖以下の指し方を示しますと
△三二金▲四四歩△四四角▲四五銀△